

〈建築士受験資格取得のための指定科目〉

製図の基礎

科目名称	製図の基礎		
科目分類	140-311-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Drafting Basics	授業区分	講義
科目責任者	山崎・李	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅・山崎・李・小鹿	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の1つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。		
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキストp.04-05、p.15の精読 授業：ガイダンス 復習：製図の基本、製図用具の基本の復習</p> <p>【第2回】 予習：テキストp.06-13の精読 授業：製図の用具、線の練習 p.06-13（個人演習・ディスカッション） 復習：製図の用具、線の練習の復習</p> <p>【第3回】 予習：テキストp.18-23の精読 授業：木造 平面図 通り芯・柱 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 通り芯・柱 までの製図仕上</p> <p>【第4回】 予習：テキストp.18-23の精読 授業：木造 平面図 柱・壁 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 柱・壁までの製図仕上</p> <p>【第5回】 予習：テキストp.18-23の精読 授業：木造 平面図 建具・家具 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 建具・家具までの製図仕上</p> <p>【第6回】 予習：テキストp.18-23の精読 授業：木造 平面図 家具・設備機器 p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 家具・設備機器までの製図仕上</p> <p>【第7回】 予習：テキストp.18-23の精読 授業：木造 平面図 寸法・仕上げ p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 平面図 寸法・仕上げまでの製図仕上</p> <p>【第8回】 予習：テキストp.24-27の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の仕上げ</p> <p>【第9回】 予習：テキストp.24-27の精読 授業：木造 断面図 p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 断面図の完成</p> <p>【第10回】 予習：テキストp.28-31の精読 授業：木造 立面図 p.28-31（個人演習・ディスカッション） 復習：木造 立面図の完成</p> <p>【第11回】 予習：テキストp.68-73の精読 授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習：RC造 平面図</p> <p>【第12回】 予習：テキストp.68-73の精読 授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション）</p>			

復習 : RC 造 平面図 【第 13 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 平面図の完成 【第 14 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 断面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 断面図の完成 【第 15 回】 予習 : テキスト p.74-77 の精読 授業 : RC 造 立面図 p.74-77 (個人演習・ディスカッション) 復習 : RC 造 立面図の完成								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。							
テキスト・教材	「新しい建築の製図」 学芸出版社							
参考書								
評価の基準と方法	授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20% 課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目								
その他	シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。原則、製図用紙は課題ごとに配布する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	CAD I		
科目分類	140-311-21	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CAD I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸・鈴木	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・佐藤(陽)・鈴木(利)・高橋(怜)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（エーアンドエー株式会社）を使用する。		
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業：ガイダンス 復習：教場、機材、ログイン方法再確認。</p> <p>【第2回】 予習：教科書 p.010-021 下読み 授業：作業環境と基本操作 p.010-021 復習：教科書 p.010-021 の例題自習</p> <p>【第3回】 予習：教科書 p.022-026 下読み 授業：作図操作に慣れる p.022-026 復習：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討</p> <p>【第4回】 予習：教科書 p.027-036 下読み 授業：基本図形(1) p.027-036 復習：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。</p> <p>【第5回】 予習：教科書 p.037-042 下読み 授業：基本図形(2) p.037-042 復習：教科書 p.037-042 の例題。</p> <p>【第6回】 予習：教科書 p.043-044 下読み 授業：名刺と表札を作る p.043-044 復習：名刺課題の提出</p> <p>【第7回】 予習：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業：スキャナを使って画像を取り込む 復習：スキャナ課題の提出</p> <p>【第8回】 予習：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。</p> <p>【第9回】 予習：教科書 p.069-087 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習：教科書 p.087 までの作業完了</p> <p>【第10回】 予習：教科書 p.088-099 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習：教科書 p.099 までの作業完了</p> <p>【第11回】 予習：教科書 p.100-101 下読み 授業：住宅の断面図を描く(1) p.100-101 復習：教科書 p.101 までの作業完了</p> <p>【第12回】 予習：教科書 p.102-107 下読み 授業：住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習：教科書 p.107 までの作業完了</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 教科書 p.108-112 下読み 授業 : 住宅の立面図を描く p.108-112 復習 : 教科書 p.112 までの作業完了 【第 14 回】 予習 : 教科書 p.113-115 下読み 授業 : ビューポート、シートレイア p.113-115 復習 : 教科書 p.115 までの作業完了 【第 15 回】 予習 : 提出済み課題の確認。 授業 : 到達度チェック 復習 : 到達度チェック問題でできなかった部分の確認								
授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材については、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。							
テキスト・教材	最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション (学芸出版社)							
参考書	「はじめての設計製図」<建築のテキスト> 編集委員会 (学芸出版社)							
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	CAD II							
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	CAD II		
科目分類	140-311-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CAD II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっている CAD ソフト VectorWorks を用いて、3D の基本を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。		
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても自力でモデリングができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：授業テキストの見直し 授業：ガイダンス 復習：授業計画の再確認</p> <p>【第 2 回】 予習：該当ページの通読 授業：モデリングの基礎 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 3 回】 予習：該当ページの通読 授業：三面図(1) 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 4 回】 予習：該当ページの通読 授業：三面図(2) 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 5 回】 予習：該当ページの通読 授業：三面図とモデリング 復習：課題以外の形状のモデリングを試行する</p> <p>【第 6 回】 予習：該当ページの通読 授業：住宅（木造）のモデリング(1) 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 7 回】 予習：該当ページの通読 授業：住宅（木造）のモデリング(2) 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 8 回】 予習：該当ページの通読 授業：住宅（木造）のモデリング(3) 復習：自由な要素を追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 9 回】 予習：該当ページの通読 授業：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(1) 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 10 回】 予習：該当ページの通読 授業：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(2) 復習：自由な要素を追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 11 回】 予習：該当ページの通読 授業：商業施設（RC 造）のテクスチャマッピング 復習：自由なテクスチャを追加してモデリングを試行する</p> <p>【第 12 回】 予習：該当ページの通読 授業：建築物のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：該当ページの通読 授業：応用課題 1 住宅（木造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する 【第 14 回】 予習：該当ページの通読 授業：応用課題 2 住宅（RC 造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する 【第 15 回】 予習：過去課題を見直す 授業：到達度チェック 復習：到達度チェック 内容の見直し								
授業開始前学習	「CAD I」で学んだ 2 次元の操作方法について、復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、学生の中からとくに代表的なものを複数選び、スクリーンに表示しながら解説してフィードバックする。							
テキスト・教材	「最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション」（学芸出版社）							
参考書								
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		○	
関連科目	CAD I							
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・この授業を履修するには、「CAD I」を修得済であること。 							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において CAD を用いた住宅設計を実践してきた実務経験を活かし、CAD の基本操作から 3D の作図方法などを演習する。							

科目名称	設計製図 I		
科目分類	140-331-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Design and Drafting I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤(勉)・三戸・佐藤(陽)・徳田・真泉・正木	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行う。敷地に対して最適な住宅の計画、設計、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、建築設計とインテリアデザインを総合的に学ぶ。図面作成方法やプレゼンテーション手法なども指導する。授業では、与えられた課題に対しての実習、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。		
到達目標	住宅の計画および設計、建築図面の作成の基礎を修得する。 インテリアデザインの計画および設計、インテリア図面の作成の基礎を修得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：ガイダンスと課題「小店舗併用住宅」の説明 復習：材料、道具の確認</p> <p>【第 2 回】 予習：敷地分析と規模確認 授業：敷地分析と事例研究（実習）（プレゼンテーション） 復習：事例収集</p> <p>【第 3 回】 予習：店舗のプログラム構想 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 4 回】 予習：中間発表用図面作成 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：中間発表の講評確認</p> <p>【第 5 回】 予習：修正・検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 6 回】 予習：修正・検討 授業：建築図面の作成（実習） 復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 7 回】 予習：修正・検討 授業：建築図面の作成、模型制作（実習） 復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 8 回】 予習：模型材料購入 授業：模型制作（実習） 復習：模型作業続き</p> <p>【第 9 回】 予習：事例収集 授業：小店舗のインテリア計画（実習） 復習：修正・検討</p> <p>【第 10 回】 予習：修正・検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：チェックされた部分の確認・修正</p> <p>【第 11 回】 予習：図面の作図方法確認 授業：インテリア図面の作成（実習） 復習：修正・検討</p> <p>【第 12 回】 予習：修正図面作図 授業：インテリア図面の作成（実習） 復習：修正・検討</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：模型制作準備 授業：インテリア模型の作成（実習） 復習：修正・検討 【第14回】 予習：模型制作準備 授業：インテリア模型の作成（実習） 復習：修正・検討 【第15回】 予習：提出準備 授業：プレゼンテーション・講評（プレゼンテーション） 復習：講評確認・作品記録								
授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ製図方法、「建築・インテリアデザイン入門」で修得した模型表現について復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で教員のチェックを受け、内容についてアドバイスをを行う。 第4回、第15回のプレゼンテーションについては講評を行う。							
テキスト・教材								
参考書	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」（市ヶ谷出版社） 「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第3版コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	課題作品点と平常点（授業態度など・提出期限厳守）を総合して評価する。 配点（100点満点）は、課題作品点70点、平常点30点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	
関連科目	関連科目 建築・インテリアデザイン入門、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他	建築・インテリアデザイン入門を修得しないと履修できない。（段階科目） 建築計画 A およびインテリアデザイン計画 A と同時に履修する事を勧める。 製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。 授業開始後すぐに作業の説明等があるため、遅刻は厳禁。遅刻3回で欠席1回分とする。 履修者を6グループに分け、それぞれ担当の教員が受け持つ。担当や教場については初回授業でアナウンスする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							

科目名称	設計製図Ⅱ		
科目分類	140-331-22 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Design and Drafting II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木・神村	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・堀邊・川村・リウ・イル・李・神村・内海・手塚	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。		
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明 復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】 予習：シェアハウスの資料収集を行う 授業：敷地分析・コンセプト立案・事例研究（実習） 復習：事例研究を行う</p> <p>【第3回】 予習：雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う 授業：エスキース（実習） 復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第4回】 予習：エスキースのための準備をする 授業：エスキース（実習） 復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第5回】 予習：エスキースのための準備をする 授業：エスキース（実習） 復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第6回】 予習：中間発表の準備をする 授業：中間発表1（基本計画について）（プレゼンテーション） 復習：講評で指摘された箇所について改善する</p> <p>【第7回】 予習：エスキースのための準備をする 授業：エスキース（実習） 復習：エスキースで指摘された箇所について改善する</p> <p>【第8回】 予習：製図作業を進める 授業：建築図面の作成（実習） 復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第9回】 予習：製図作業を進める 授業：建築図面の作成（実習） 復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第10回】 予習：製図作業を進める 授業：建築図面の作成（実習） 復習：製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第11回】 予習：中間発表の準備をする 授業：中間発表2（図面レイアウトについて）（プレゼンテーション） 復習：講評で指摘された箇所について改善する</p> <p>【第12回】 予習：インテリア図面作業を進める 授業：インテリア図面の作成（実習） 復習：作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : インテリア図面作業を進める 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする 【第 14 回】 予習 : 模型材料を準備する 授業 : プレゼンテーションシート・模型の作成 (実習) 復習 : プレゼンテーションシート・模型を完成させる 【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 講評内容をもとに、自己評価を行う								
授業開始前学習	「設計製図 I」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する。							
参考書	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」(市ヶ谷出版社) 「新しいインテリアデザインの実技」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法	課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点 (100 点満点)は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	
関連科目	設計製図 I、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他	製図道具 (製図用ペン、面取り三角定規等)、模型制作に必要な道具 (カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等) と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。							

科目名称	建築デザイン I		
科目分類	142-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・田中(昭)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	設計製図Ⅰ、Ⅱで学んだ個人住宅・シェアハウスの設計を基に、小規模な集合住宅の計画及び設計を行う。住宅の内部空間だけでなく、住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考える。また、建物と外部空間の関係を考えるトレーニングとして短期課題を行う。それらの課題のプレゼンテーションを毎回行う。		
到達目標	短期課題を通して、計画からプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスをコントロールすることを習得する。小規模な集合住宅の課題を通して建築単体のあり方だけでなく外部空間や環境とのつながりを考える事の重要性を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを参照する事 授業：ガイダンスと短期課題の説明 復習：課題キーワードの確認</p> <p>【第2回】 予習：コンセプト作成 授業：エスキース 復習：課題について自習</p> <p>【第3回】 予習：事例研究 授業：エスキース 復習：スタディ模型作成</p> <p>【第4回】 予習：スタディ模型検討 授業：短期課題の発表（プレゼンテーション）・講評 復習：作成プロセスの確認</p> <p>【第5回】 予習：集合住宅の定義確認 授業：「小規模集合住宅課題」の説明 復習：課題内容キーワード確認</p> <p>【第6回】 予習：敷地分析 授業：敷地分析・事例研究・エスキース 復習：ヴォリュームスタディ</p> <p>【第7回】 予習：ヴォリューム模型作成 授業：エスキース 復習：エスキース模型作成</p> <p>【第8回】 予習：図面検討 授業：エスキース 復習：図面検討</p> <p>【第9回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討</p> <p>【第10回】 予習：図面、模型検討 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：コンセプト確認</p> <p>【第11回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討</p> <p>【第12回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 図面、模型検討 授業 : プレゼンテーションの表現・技法の説明 復習 : 図面、模型検討 【第 14 回】 予習 : 図面、模型検討 授業 : エスキース 復習 : 図面、模型検討 【第 15 回】 予習 : 課題制作 授業 : 課題 発表 (プレゼンテーション) ・講評 復習 : 課題作成プロセス確認								
授業開始前学習	類似事例の研究							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。							
テキスト・教材	特になし。適宜資料を配布する。							
参考書	「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版) 各自、必要と思われる資料を集めること。							
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・授業態度により評価する。配点は (100 点満点における) 提出物 50 点・プレゼンテーション 30 点・授業態度 20 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○
関連科目	建築計画 B							
その他	構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目の担当者は建築設計の実務経験を有しており、本科目ではその経験を活かし建築設計の実習を行う。							

科目名称	建築デザインⅡ		
科目分類	142-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・井原	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築デザインⅠで設計した集合住宅および公共建築を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった公共施設の計画、設計、作図、プレゼンテーションを行う。 前半にパブリックスペースの在り方、周辺環境との関わりをを考慮するトレーニングとして小規模な公共施設、後半には都市的な規模の公共施設に取り組む。		
到達目標	公共施設の計画を通じて、敷地環境の分析から、都市における問題点、良い点などを読み取り、より高度な提案と作図表現、プレゼンテーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：授業ガイダンス、短期 課題の説明 復習：課題キーワードの確認</p> <p>【第2回】 予習：コンセプト作成 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：課題の自習</p> <p>【第3回】 予習：事例研究 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：エスキース模型作成</p> <p>【第4回】 予習：エスキース模型検討 授業：短期課題の発表・講評（プレゼンテーション） 復習：作成プロセスの確認</p> <p>【第5回】 予習：公共施設の実例検索 授業：課題 説明・「公共施設の提案」 復習：課題内容キーワード確認</p> <p>【第6回】 予習：敷地事前分析 授業：敷地分析・事例調査・エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：ヴォリュームスタディ</p> <p>【第7回】 予習：ヴォリューム模型作成 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：エスキース模型作成</p> <p>【第8回】 予習：図面検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：断面計画検討</p> <p>【第9回】 予習：断面、平面計画検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：エスキース模型による再検討</p> <p>【第10回】 予習：中間発表にむけてプレゼ検討 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：コンセプトの確認</p> <p>【第11回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：図面、模型検討</p> <p>【第12回】 予習：断面計画再検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：平面計画再検討</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : パネルレイアウト検討 授業 : プレゼンテーション指導 (実習) 復習 : パネルレイアウト検討 【第 14 回】 予習 : 平立断再検討 授業 : 作図、プレゼンテーション作業 (実習) 復習 : プレゼンテーション準備 【第 15 回】 予習 : プレゼンテーション準備 授業 : 課題 発表 (前日に図面・模型提出) ・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 作成プロセス確認								
授業開始前学習	類似事例の研究							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の進捗状況を個別に確認しアドバイスをを行う。 課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。							
テキスト・教材	特になし							
参考書	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・平常点 (授業態度) により評価する。配点は (100 点満点における) 課題点 70 点・平常点 (授業態度等) 30 点の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○
関連科目	設計製図 I、建築デザイン I、建築計画 C							
その他	設計製図 I、建築デザイン I を履修済みであること。 構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							

科目名称	建築・インテリアデザイン入門		
科目分類	140-331-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Introduction to Architecture and Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・茂木・山崎	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	建築・インテリア計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材に、住宅の計画手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。授業では演習課題やプレゼンテーションを行う。		
到達目標	建築やインテリアデザインの基本的な考え方を習得すること。図面の読み方、寸法計画、環境計画、内装計画などの空間デザインプロセスの基礎を理解し、建築・インテリアデザインを多面的な視点から捉えられること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：住宅の建築計画 事前学習 授業：住宅の建築計画とは？ 復習：住宅の建築計画 資料確認</p> <p>【第3回】 予習：寸法計画(1) 事前学習 授業：寸法計画(1) (演習課題) 復習：寸法計画(1) 資料確認</p> <p>【第4回】 予習：敷地の読み方と分析 事前学習 授業：敷地の読み方と分析 (演習課題) 復習：敷地の読み方と分析 資料確認</p> <p>【第5回】 予習：住宅の機能を考える 事前学習 授業：住宅の機能を考える (演習課題) 復習：住宅の機能を考える 資料確認</p> <p>【第6回】 予習：住宅の動線計画を考える 事前学習 授業：住宅の動線計画を考える (演習課題) 復習：住宅の動線計画を考える 資料確認</p> <p>【第7回】 予習：実際の住宅を分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(1) (演習課題) 復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業</p> <p>【第8回】 予習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(2) (演習課題) 復習：実際の住宅を分析・考察する 課題作業、まとめ</p> <p>【第9回】 予習：住宅のインテリア計画 事前学習 授業：住宅のインテリア計画とは？ 復習：住宅のインテリア計画 資料確認</p> <p>【第10回】 予習：寸法計画(2) 事前学習 授業：寸法計画(2) (演習課題) 復習：寸法計画(2) 資料確認</p> <p>【第11回】 予習：図面の読み方 事前学習 授業：図面の読み方 (演習課題) 復習：図面の読み方 資料確認</p> <p>【第12回】 予習：室内環境の考え方 事前学習 授業：室内環境の考え方 (演習課題) 復習：室内環境の考え方 資料確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習：内装計画の考え方 事前学習 授業：内装計画の考え方（演習課題） 復習：内装計画の考え方 資料確認 【第14回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(1)（演習課題） 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 【第15回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(2)（プレゼンテーション） 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題まとめ								
授業開始前学習	前期「製図の基礎」科目の内容を見直してしておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	課題提出後の授業で講評を行う。							
テキスト・教材	特になし							
参考書								
評価の基準と方法	課題と授業態度等を総合して評価する。 配点（100点満点）は、課題①30点、課題②30点、授業態度等40点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	
関連科目								
その他	必要な道具等は授業中に適宜説明する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が建築・インテリアデザイン分野の実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が建築・インテリアデザインの実務に役立つ講義と実習を行う。							

科目名称	建築デザイン論		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Architectural Design	授業区分	講義
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	近代建築以降の日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的と条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。また、授業では提出されたレポート課題に関するディスカッションを行う。		
到達目標	20 世紀モダニズム建築作品とその歴史的意義を学ぶ。 日本の現代建築作品に対する基礎的な知識を習得する。 現在の建築を切り開いている建築家の作品の建築的意味を理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを読むこと 授業：ガイダンス（授業の目的と進め方の説明） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 2 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：19 世紀末及び 20 世紀初頭のヨーロッパの状況（小レポート） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 3 回】 予習：サヴォア邸について検索 授業：ル・コルビジエの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：近代建築の五原則確認</p> <p>【第 4 回】 予習：落水荘について検索 授業：フランク・ロイド・ライトの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：有機的建築についてキーワード確認</p> <p>【第 5 回】 予習：ファンズワース邸について検索 授業：ミース・ファン・デル・ローエの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習：ミース・ファン・デル・ローエのキーワードの確認</p> <p>【第 6 回】 予習：国立西洋美術館について検索 授業：三巨匠の日本建築家への影響とその遺産（小レポート・ディスカッション） 復習：戦後公共建築の復讐</p> <p>【第 7 回】 予習：吉村順三「軽井沢の家」について検索 授業：吉村順三の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習：吉村順三の住宅のキーワード確認</p> <p>【第 8 回】 予習：清家清の自邸について検索 授業：清家清の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習：清家清の住宅のキーワード確認</p> <p>【第 9 回】 予習：配布資料の事前参照 授業：団地の誕生と集合住宅（小レポート・ディスカッション） 復習：配布資料のキーワードの確認</p> <p>【第 10 回】 予習：丹下健三について検索 授業：丹下健三の建築とその弟子たち（国家と建築）（小レポート・ディスカッション） 復習：戦後第一世代の建築家の作品検索</p> <p>【第 11 回】 予習：「住吉の長屋」図面参照 授業：安藤忠雄の住宅と建築（ミニマリズムとコンクリート）（小レポート・ディスカッション） 復習：安藤建築のキーワード確認</p> <p>【第 12 回】 予習：伊東豊雄について検索 授業：伊東豊雄の住宅と建築（時代への対応）（小レポート・ディスカッション） 復習：伊東豊雄の建築のキーワード確認</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 金沢 2 1 世紀美術館の検索 授業 : SANAA の住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : SANAA 建築のキーワード確認 【第 14 回】 予習 : 藤本壮介について検索 授業 : 若手世代の住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 藤本壮介の建築キーワードの確認 【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 建築の可能性へ向けて (小レポート・ディスカッション) 復習 : 配布資料のキーワードの確認								
授業開始前学習	各建築家について調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	建築雑誌等、作品集等。							
評価の基準と方法	小レポート及びレポート 70 点、平常点 (授業態度、課題提出) 30 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図Ⅱ、建築デザインⅠ、建築デザインⅡ							
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 A		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning A	授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	1-211
授業概要	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得する。授業では講義にともなって演習課題を行う。		
到達目標	「住宅設計」を題材に、建築計画、建築設計の基礎を修得する。 名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：教科書の購入 授業：ガイダンス（テキスト p.18-27） 復習：教科書の見直し（p.18-27）</p> <p>【第 2 回】 予習：製図の基礎で学んだ図面の種類をみておく 授業：図面の作法 復習：配布資料見直し</p> <p>【第 3 回】 予習：教科書を読んでおく(p.10-17) 授業：住宅設計とは何か（テキスト p.10-17）（演習課題 1） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 4 回】 予習：教科書を読んでおく(p.28-29) 授業：こんな家に住みたい（テキスト p.28-29） 復習：事例研究</p> <p>【第 5 回】 予習：教科書を読んでおく(p.32-37) 授業：住宅計画 1（敷地環境の分析）（テキスト p.32-37）（演習課題 2） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 6 回】 予習：教科書を読んでおく(p.38-41) 授業：住宅計画 2（動線計画）（テキスト p.38-41） 復習：事例研究</p> <p>【第 7 回】 予習：教科書を読んでおく(p.42-45) 授業：住宅計画 3（食空間の計画）（テキスト p.42-45）（演習課題 3） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 8 回】 予習：教科書を読んでおく(p.46-49) 授業：住宅計画 4（パブリック空間の計画）（テキスト p.46-49） 復習：事例研究</p> <p>【第 9 回】 予習：教科書を読んでおく(p.50-53) 授業：住宅計画 5（プライベート空間の計画）（テキスト p.50-53）（演習課題 4） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 10 回】 予習：教科書を読んでおく(p.54-56) 授業：住宅計画 6（収納計画）（テキスト p.54-56） 復習：事例研究</p> <p>【第 11 回】 予習：教科書を読んでおく(p.58-59) 授業：住宅計画 7（ユニバーサルデザイン）（テキスト p.58-59）（演習課題 5） 復習：授業中に出题された課題調査</p> <p>【第 12 回】 予習：教科書を読んでおく(p.60-61) 授業：平面計画の考え方 1（テキスト p.60-61） 復習：事例研究</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 教科書を読んでおく(p.62-63) 授業 : 平面計画の考え方 2 (テキスト p.62-63) (演習課題 6) 復習 : 授業中に出题された課題調査 【第 14 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.64-65) 授業 : 断面計画の考え方 (テキスト p.64-65) 復習 : 事例研究 【第 15 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 前期のまとめ・アンケート実施 復習 : 授業中に出题された課題調査								
授業開始前学習	教科書を購入し目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	出題された課題は、内容に応じて学生の提出物を共有したり、模範回答を解説するなどフィードバックを行う。							
テキスト・教材	「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」市ヶ谷出版							
参考書	「建築計画設計シリーズ 40 新・設計基礎 (構造・環境設備・法規)」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法	演習課題提出状況 : 30 点、演習課題の内容による : 70 点							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ							
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・設計製図Ⅰの課題の進度に合わせて必要な知識を学ぶため、同時に履修することを強く推奨する。 ・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 B		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning B	授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40~12:10 木曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30	研究室	1-203
授業概要	住空間の建築計画において主に集合住宅に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を学ぶ。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についても考察する。授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	集合住宅や学校、医療・高齢者福祉施設の計画・設計に必要な基礎的な知識を理解し、建築計画について習得する。また、国内外の事例について建築計画の視点から考察できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス 復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】 予習：身の回りのものの寸法を測ってみる 授業：基本寸法とスケール感（演習課題1） 復習：自宅の家具や小物の寸法を測ってみる</p> <p>【第3回】 予習：参考書等を使って建物の計画手順について予習する 授業：建物を作るための計画手順（演習課題2） 復習：配布資料を再読し、建物の計画手順について理解を深める</p> <p>【第4回】 予習：参考書等を使って集合住宅の形式について予習する 授業：集合住宅の住戸・住棟計画（演習課題3） 復習：住戸・住棟計画の演習資料を再読し、復習する</p> <p>【第5回】 予習：参考書等を使って建物の動線計画について予習する 授業：集合住宅の動線計画（演習課題4） 復習：動線計画の演習資料を再読し、復習する</p> <p>【第6回】 予習：雑誌等で集合住宅の事例を調べる 授業：集合住宅の事例紹介と分析 復習：配布資料を再読し、集合住宅の事例研究方法について理解を深める</p> <p>【第7回】 予習：興味を持った集合住宅の事例について学習する 授業：集合住宅の事例紹介と分析（演習課題5） 復習：集合住宅の事例研究資料を作成する</p> <p>【第8回】 予習：環境に配慮した集合住宅の事例を調べる 授業：環境と建築の関わり 復習：配布資料を再読し、集合住宅と環境について理解を深める</p> <p>【第9回】 予習：集合住宅の外構事例を調べる 授業：外構計画の考え方（演習課題6） 復習：配布資料を再読し、外構計画について理解を深める</p> <p>【第10回】 予習：集合住宅事例研究の発表準備をする 授業：集合住宅事例研究の発表（グループ発表） 復習：発表で指摘された点について復習する</p> <p>【第11回】 予習：雑誌等で学校建築の事例を調べる 授業：学校の建築計画① 復習：配布資料を再読し、学校建築について理解を深める</p> <p>【第12回】 予習：興味を持った学校建築の事例について学習する 授業：学校の建築計画②（演習課題7：グループワーク） 復習：学校建築について自分の視点で考察する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：雑誌等で医療・高齢者福祉施設の事例を調べる 授業：医療・高齢者福祉施設の建築計画① 復習：配布資料を再読し、医療・高齢者福祉施設について理解を深める 【第14回】 予習：興味を持った医療・高齢者福祉施設の事例について学習する 授業：医療・高齢者福祉施設の建築計画②（演習課題8） 復習：医療・高齢者福祉施設について自分の視点で考察する 【第15回】 予習：レポートを進める 授業：まとめ 復習：レポートを仕上げ、提出する								
授業開始前学習	集合住宅の事例を建築雑誌で閲覧しておくことを推奨する。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習課題を実施した際には、個別添削と講義内での解説を行う。事例研究課題については、発表と講評を行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する							
参考書	「テキスト 建築計画」（学芸出版社） 「第3版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	演習・事例研究・レポート・授業態度を総合して評価する。 配点（100点満点）は、演習・事例研究 20点、レポート 50点、授業態度 30点とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築デザイン I							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計等の実務経験を活かし、集合住宅等の建築計画学について講義する。							

科目名称	建築計画 C		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning C	授業区分	講義
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	この授業では建築計画 A、B のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともにを行い、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。 具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設等を対象とする。		
到達目標	美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設の建築計画学としての基礎知識の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：配布資料確認</p> <p>【第 2 回】 予習：美術館の定義検索 授業：美術館の建築計画 復習：配布資料キーワード確認</p> <p>【第 3 回】 予習：ルイスカーンの美術館検索 授業：美術館の事例紹介① 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 4 回】 予習：ポンピドー美術館検索 授業：美術館の事例紹介② 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 5 回】 予習：エクセター図書館検索 授業：図書館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 6 回】 予習：上野、法隆寺博物館参照 授業：博物館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 7 回】 予習：発表準備 授業：課題 I 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証</p> <p>【第 8 回】 予習：発表準備 授業：課題 II 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証</p> <p>【第 9 回】 予習：メディアテーク参照（伊東豊雄） 授業：複合施設の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認</p> <p>【第 10 回】 予習：敷地分析 授業：複合施設事例紹介と分析① 復習：敷地と建築の関係確認</p> <p>【第 11 回】 予習：機能分析 授業：複合施設事例紹介と分析② 復習：機能ダイアグラムの検証</p> <p>【第 12 回】 予習：断面計画の分析 授業：複合施設事例紹介と分析③ 復習：断面計画と機能ダイアグラムの関係を検証</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：発表準備 授業：課題Ⅲ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証 【第14回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅳ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証 【第15回】 予習：分析プロセスの再検証 授業：まとめ 復習：建築計画の意味の確認								
授業開始前学習	建築計画 A、建築計画 B で学んだ、建築計画の基礎について復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	「第3版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法	毎回の小課題と期末レポート、授業態度で評価を行う。配点は（100点満点に於ける）は、小課題とレポート 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築デザイン II							
その他	授業の順番等は、適宜変更する場合がある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築計画 D		
科目分類	142-331-14	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Planning D	授業区分	講義
科目責任者	鹿倉 祐一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鹿倉 祐一	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「一級建築士」および「二級建築士」の試験に出題される「建築計画」の分野についての基礎的な内容を重点的に学ぶ。さらに実践的な演習問題に取り組み、応用問題を学ぶ。インテリアプランナーやインテリアコーディネーターなどの資格試験内容にもつながる。		
到達目標	建築士を目指す際に必要となる「建築計画」分野の基礎的な知識を習得する。実践的な、演習問題をとおりて基礎的な知識を定着させ、応用力を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：建築士試験の内容を調べる 授業：ガイダンス 建築士制度、建築士事務所について 復習：建築士の役割を理解する</p> <p>【第2回】 予習：1年生から3年生までの建築計画の内容をまとめる 授業：建築計画一般 住宅 復習：建築士試験での計画の内容を理解する</p> <p>【第3回】 予習：住宅・集合住宅に必要なものを調べる 授業：住宅・集合住宅 復習：住宅・集合住宅の構成を理解する</p> <p>【第4回】 予習：都市とはなにかを調べる 授業：地域計画 近隣住区理論 復習：都市の構成、まちづくりについて理解する</p> <p>【第5回】 予習：商業建築の役割について調べる 授業：商業建築1（事務所・劇場） 復習：事務所・劇場の内容を理解する</p> <p>【第6回】 予習：店舗・ホテル・駐車場の役割について調べる 授業：商業建築2（店舗・宿泊施設・駐車場） 復習：店舗・ホテル・駐車場の内容理解する</p> <p>【第7回】 予習：公共建築の役割を調べる 授業：公共建築1（保育所・幼稚園・学校） 復習：保育所・幼稚園・学校の内容を理解する</p> <p>【第8回】 予習：高齢者社会と医療についての調べる 授業：公共建築2（医療施設・社会福祉施設） 復習：医療施設・社会福祉施設の内容を理解する</p> <p>【第9回】 予習：公共建築と周辺環境のつながりを調べる 授業：公共建築3（図書館・博物館・美術館） 復習：図書館・美術館・博物館の内容を理解する</p> <p>【第10回】 予習：建築計画における人体寸法を調べる 授業：各部計画1（各部寸法、面積等） 復習：建築計画で利用される細部寸法、大きさを理解する</p> <p>【第11回】 予習：バリアフリーに関する法律を調べる。 授業：各部計画2（バリアフリー、高齢者・身障者に対する建築計画） 復習：健全者以外のための建築計画を理解する</p> <p>【第12回】 予習：建築の施工方法を調べる 授業：建築計画と建築生産 復習：建築の施工方法について理解する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 日本建築、西洋建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 1 (日本建築史・西洋建築史) 復習 : 日本建築、西洋建築の特徴、年代、設計者などを理解する 【第 1 4 回】 予習 : 近代建築・現代建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 2 (近代建築史・現代建築史) 復習 : 近代建築、現代建築の特徴、年代、設計者などを理解する 【第 1 5 回】 予習 : 不得意な分野を洗い出し、まとめておくこと 授業 : 建築士試験の内容を分析と対策 復習 : 建築計画の内容を整理し、建築士試験の出題傾向について理解する								
授業開始前学習	建築計画に関連する過去に出題された「一級建築士」および「二級建築士」の問題を閲覧しておくことを勧めます。							
授業内課題の フィードバックの方法	各回の授業の内容と演習問題の関連性についての疑問について、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	適宜、各回講義内にて資料を配布する。							
参考書	建築計画 A 教科書『建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I』(市ヶ谷出版)を参考書として利用する。住宅、集合住宅、各部計画の講義時に利用する。							
評価の基準と方法	小テストと演習問題で評価する。 配点(100点満点)は、小テスト 30 点と演習問題 40 点、平常点(授業態度・課題提出) 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築計画 C							
その他	各回授業時間内の最後に小テストを行います。また、最終回に演習問題を行います。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	日本建築史		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Japanese Architecture	授業区分	講義
科目責任者	岩谷 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岩谷 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	自然・社会・文化との密接な関わりの中、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を拡げて考察する。		
到達目標	日本建築についての様式上の特質・意匠・技術について理解を深め、専門用語の説明ができるようになる。日本建築に対して、関心を持ち、自分自身の考えを広げられるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「参考図書」①の p.8～p.12 を講読 授業：日本建築の特徴・日本の住様式 復習：日本の住様式について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第2回】 予習：「参考図書」①の p.36～p.38 を講読 授業：古代（1）飛鳥・奈良時代の神社建築 復習：伊勢神宮、出雲大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第3回】 予習：「参考図書」①の p.18～p.25 を講読 授業：古代（2）飛鳥・奈良時代の寺院建築 復習：法隆寺、東大寺、薬師寺他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第4回】 予習：「参考図書」①の p.26～p.34、p.38～p.42 を講読 授業：古代（3）平安時代の神社・寺院建築 復習：密教建築、浄土教建築、春日大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第5回】 予習：「参考図書」①の p.44～p.54 を講読 授業：古代（4）都城の制と宮殿、邸宅 復習：平城京、平安京、寝殿造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第6回】 予習：「参考図書」①の p.68～p.73 を講読 授業：中世（1）鎌倉・室町時代の神社建築 復習：中世の寺社建築、技術条の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第7回】 予習：「参考図書」①の p.56～p.67 を講読 授業：中世（2）鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築 復習：大仏様・禅宗様について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第8回】 予習：「参考図書」①の p.75、p.78～p.88 を講読 授業：中世（3）中世都市と住宅 復習：寺内町、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第9回】 予習：「参考図書」①の p.94～p.104 を講読 授業：近世（1）安土桃山・江戸時代の神社・寺院・霊廟建築 復習：黄檗宗の建築、東照宮他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第10回】 予習：「参考図書」①の p.90～p.94、p.110～p.118 を講読 授業：近世（2）城郭建築と城下町、近世武家住宅 復習：城郭建築、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第11回】 予習：「参考図書」①の p.82～p.84、p.119～p.120 を講読 授業：茶室・数寄屋建築（1） 復習：茶室建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第12回】 予習：「参考図書」①の p.119～p.120 を講読 授業：茶室・数寄屋建築（2） 復習：茶室建築の展開・数寄屋建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 「参考図書」①の p.130～p.144 を講読 授業 : 近代洋風建築 復習 : 明治の開国からコンドル、辰野金吾他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 14 回】 予習 : 「参考図書」①の p.144～p.153、p.156～p.164 を講読 授業 : 日本のモダニズム 復習 : 分離派建築会、近代和風、近代合理主義について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 15 回】 予習 : 「参考図書」①の p.164～p.176 を講読 授業 : 全体のまとめ 復習 : モダニズム～ポスト・モダンの建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する								
授業開始前学習	授業で対象となる建築の時代について、政治・文化的な日本史の要旨を理解しておくことがのぞましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。復習としてまとめる際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材	関連資料は、適宜 PDF（またはプリント）として配布する。							
参考書	①太田博太郎監修「カラー版 日本建築様式史」（美術出版社、1999 年） ②日本建築学会編「日本建築史図集」（彰国社、2009 年） ③光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）							
評価の基準と方法	レポートによる成績、平常点などから総合的に評価する。 点数配分は 100 点満点のうち、平常点（毎回の授業の小レポートと受講態度）が 60 点、40 点は中間・期末の 2 回のレポートの成果から判断する。出席数が 10 回未満の場合は、原則としては単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	日本の建築意匠・デザインを扱うすべての授業、日本史、日本文化史							
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 日本建築の歴史をしっかりと把握し、さらに未来に向けて創造的に還元できることがのぞましい。日本建築の特徴を生かした近代・現代の建築についても資料を調べ、見学することを勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	西洋建築史		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	History of Western Architecture	授業区分	講義
科目責任者	岩谷 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岩谷 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高める。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。		
到達目標	西欧の建築について、様式・意匠・技術などの特徴や専門用語を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心が持てるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：「参考図書」にある時代区分を確認 授業：西洋建築史ガイダンス 復習：古代以来の西欧建築の時代区分とその特徴について、図版・資料をもとに確認する</p> <p>【第2回】 予習：「参考図書」の p.18～p.27 を講読 授業：古代ギリシア建築 復習：ギリシア神殿とオーダーについて、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第3回】 予習：「参考図書」の p.27～p.32 を講読 授業：古代ギリシア建築と都市 復習：古代ギリシアの都市、住宅建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第4回】 予習：「参考図書」の p.34～p.42 を講読 授業：古代ローマ建築 復習：古代ローマ建築の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第5回】 予習：「参考図書」の p.43～p.46 を講読 授業：古代ローマ建築と都市 復習：西欧各地のローマによる建築・都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第6回】 予習：「参考図書」の p.48～p.56 を講読 授業：ビザンティン建築 復習：ビザンティン建築、初期キリスト教建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第7回】 予習：「参考図書」の p.12～p.16 を講読 授業：オリエントの建築、イスラム建築 復習：エジプト建築やイスラム教の建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第8回】 予習：「参考図書」の p.56、p.58～p.70 を講読 授業：プレ・ロマネスク建築、ロマネスク建築 復習：プレ・ロマネスク、ロマネスク建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第9回】 予習：「参考図書」の p.72～p.80 を講読 授業：ゴシック建築 復習：フランスを中心に各国のゴシック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第10回】 予習：「参考図書」の p.80～p.84 を講読 授業：中世の建築と都市 復習：西欧中世の都市と建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第11回】 予習：「参考図書」の p.86～p.92、p.102～p.112 を講読 授業：ルネサンス建築と都市 復習：各国のルネサンス建築、ルネサンス都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第12回】 予習：「参考図書」の p.93～p.100 を講読 授業：マニエリスム建築 復習：イタリアを中心とするマニエリスム建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する</p> <p>【第13回】</p>			

予習：「参考図書」の p.114～p.126 を講読 授業：バロック建築 復習：各国のバロック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 14 回】 予習：「参考図書」の p.128～p.135 を講読 授業：バロック建築と都市 復習：バロック建築と都市の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する 【第 15 回】 予習：「参考図書」の p.135～p.140、p.142～p.152 を講読 授業：新古典主義建築 復習：イギリス、フランスの新古典主義建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する									
授業開始前学習	配布資料に目を通し確認する。また、授業の内容に関連する時代の政治・文化について、世界史の要旨を把握しておく理解しやすい。								
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容について整理し、自分たちの意見・感想を合わせ小レポートとして提出する。レポートの記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。								
テキスト・教材	関連資料は、PDF（またはコピー）により配布する。								
参考書	①熊倉洋介、末永航 他「カラー版 西洋建築様式史」（美術出版社、2010 年） ②光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）								
評価の基準と方法	100 点満点のうち、平常点（毎回の授業のレポートと受講態度）が 60 点、中間・期末の 2 回のレポートが 40 点である。出席が 10 回未満の場合は、原則として単位取得できない。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○				◎	○			
関連科目	西欧の歴史・意匠に関する全ての授業、文化史・歴史								
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 授業のなかで説明した建築・都市に関連する内容について、具体的に世界遺産などを調べてさらに関心を深めていくことを勧める。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	環境デザイン		
科目分類	140-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Environmental Design	授業区分	講義
科目責任者	中津 大悟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中津 大悟	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。		
到達目標	建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会・持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
【第1回】	予習：「環境」「デザイン」の意味を考える 授業：環境デザインの基本的な考え方 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第2回】	予習：「地球温暖化」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～エネルギーの消費と地球温暖化 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第3回】	予習：「再生可能エネルギー」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～再生可能エネルギーと創エネ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第4回】	予習：「持続可能な社会」について調べる 授業：地球環境 ～身近なエコと環境ラベリング制度 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第5回】	予習：「世界の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第6回】	予習：「日本の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第7回】	予習：身近な「光環境」を見つける 授業：生活環境 ～光環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第8回】	予習：身近な「温熱環境」を見つける 授業：生活環境 ～温熱環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第9回】	予習：身近な「空気環境」を見つける 授業：生活環境 ～空気環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第10回】	予習：身近な「音環境」を見つける 授業：生活環境 ～音環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第11回】	予習：「緑化」の効用について調べる 授業：生活環境 ～室内環境と緑化① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第12回】	予習：身近な「緑化」空間を見つける 授業：生活環境 ～室内環境と緑化② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる		
【第13回】			

予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる 【第14回】 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる 【第15回】 予習：これまでの授業内容で不明点を確認する 授業：生活環境デザインのまとめ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	小レポートの内容に関して授業内で解説（または講評、補足）を適宜行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	レポート、出席状況で評価を行う。 詳細については学生の理解度を勘案し調整するものとする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計の実務経験を活かし、 環境諸問題に対し、建築分野を出発点とした際の接点や問題解決へのアプローチ（環境デザイン）について講義。							

科目名称	環境工学		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Environmental Engineering	授業区分	講義
科目責任者	宮岡 大	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	宮岡 大	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」としても広い定義を持っている。その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。		
到達目標	建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な事項を修得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス（建築環境工学について） 復習：ガイダンス配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第2回】 予習：気候と建築の関連用語の確認 授業：建築環境計画（1）気候と建築 復習：気候と建築に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第3回】 予習：都市・地球環境とヒートアイランド現象関連用語の確認 授業：建築環境計画（2）都市・地球環境とヒートアイランド現象 復習：都市・地球環境とヒートアイランド現象に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第4回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（1）温度と熱移動の基礎 復習：温度と熱移動の基礎に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第5回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（2）建築部位の伝熱特性 復習：建築部位の伝熱特性に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第6回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（3）人体の熱的快適性 復習：人体の熱的快適性に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第7回】 予習：湿気環境の関連用語の確認 授業：湿気環境 湿度・結露 復習：湿気環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第8回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（1）室内空気環境と換気計画 復習：室内空気環境と換気計画に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第9回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（2）自然通風・自然換気 復習：自然通風・自然換気に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第10回】 予習：日射 太陽エネルギーの関連用語の確認 授業：日射 太陽エネルギーと大気放射 復習：日射 太陽エネルギーと大気放射に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第11回】 予習：日影・日照に関する関連用語の確認 授業：日影・日照 太陽位置と日影曲線 復習：日影曲線の作成に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第12回】 予習：光環境の関連用語の確認 授業：光環境 昼光利用、照明 復習：昼光利用、照明に関する配布資料の再読と課題提出の自習</p> <p>【第13回】</p>			

予習：色彩の関連用語の確認 授業：色彩 復習：色彩に関する配布資料の再読と課題提出の自習 【第 14 回】 予習：音環境の関連用語の確認 授業：音環境 音の性質と遮音・吸音 復習：音環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習 【第 15 回】 予習：全 1 5 回の関連用語の確認 授業：建築環境工学のまとめ 復習：まとめに関する配布資料の再読と課題提出の自習								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	小テスト・レポートについては、授業にて全体の講評を行い、コメントや質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	「環境工学教科書」(彰国社) 「最新・建築環境工学」(井上書院)							
評価の基準と方法	確認テスト・小テスト・レポート 70%、授業態度・課題提出 30%で評価するが、学生の理解度を勘案し調整する。出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	建築環境設備		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Environmental Equipment	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 梓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 梓	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を修得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目標とし、建築設備全般に関する基礎的な知識の修得を目指す。		
到達目標	建築環境設備の基礎的な知識を修得し、快適な生活の実現の為に建築環境がどのように寄与しているの理解する。また、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：当該分野の書籍等を読み、専門用語に慣れておく。 授業：ガイダンス（建築環境設備について） 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第2回】 予習：どのような地域冷暖房計画が実際に運用されているか情報を収集しておく。 授業：建築設備の総合計画・地域設備計画 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第3回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(1) 空調計画・ゾーニング 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第4回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(2) 冷却原理とヒートポンプ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第5回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(3) 空調機とファンコイル 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第6回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(4) ファン、ダクト、吹き出し口 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第7回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(5) 湿り空気と空気線図 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第8回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(6) 自然エネルギーの利用と省エネ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第9回】 予習：換気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：換気設備 換気設備、フィルター、クリーンルーム 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第10回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(1) 給水設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第11回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(2) 給湯設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第12回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(3) 衛生設備と水まわり 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(4) 排水通気設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第14回】 予習：ガス設備や浄化槽等について、基礎知識をつけておく。 授業：その他の設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第15回】 予習：第1回～14回の授業内容について確認する。 授業：建築環境設備のまとめ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。</p>								
授業開始前学習	当該分野の書籍等には目を通しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内での解説を実施する。							
テキスト・教材	『「建築の設備」入門』新訂第二版（彰国社）。 また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書	『建築設備入門』（オーム社）							
評価の基準と方法	小テスト 20%、レポート 50%、平常点（授業態度・理解度） 30%							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	構造力学 I		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Structural Theory I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識を習得する。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。		
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて理解しておくこと。 授業：ガイダンス、力のつり合い 復習：力のつり合いを理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】 予習：モーメントの概念について理解しておくこと 授業：モーメントの概念 復習：モーメントの概念を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 3 回】 予習：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解しておくこと 授業：部材の伸縮、応力度、ひずみ 復習：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 4 回】 予習：トラスの原理を理解しておくこと 授業：トラスの原理 復習：トラスの原理を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 5 回】 予習：トラスの解法を理解しておくこと 授業：トラスの解法 復習：トラスの解法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 6 回】 予習：片持ち梁・単純梁を理解しておくこと 授業：片持ち梁にかかる応力 復習：片持ち梁にかかる応力を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 7 回】 予習：荷重を理解しておくこと 授業：分布荷重 復習：分布荷重を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 8 回】 予習：応力度を理解しておくこと 授業：曲げ応力度 復習：曲げ応力度を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 9 回】 予習：たわみを理解しておくこと 授業：たわみ 復習：たわみを理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 10 回】 予習：座屈を理解しておくこと 授業：座屈 復習：座屈を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 11 回】 予習：許容応力度を理解しておくこと 授業：梁の断面設計 - 1 復習：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 12 回】 予習：梁の断面設計を理解しておくこと 授業：梁の断面設計 - 2 復習：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 反力を理解しておくこと 授業 : 静定ラーメンの反力-1 復習 : 反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること 【第14回】 予習 : 反力の求め方を理解しておくこと 授業 : 静定ラーメンの反力-2 復習 : 反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること 【第15回】 予習 : 演習問題の内容を理解しておくこと 授業 : 評価 復習 : 授業内容を理解するよう演習問題で理解すること								
授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学A及び数学B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	改訂版図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題集（学芸出版）							
参考書	図説やさしい建築数学（学芸出版）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験 60%、小テスト 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							

科目名称	構造力学Ⅱ		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Structural Theory II	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得する。		
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできること。同時に部材内の応力度について理解を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：トラスの種類について理解しておくこと。 授業：トラス トラスの種類及びトラスの解法 復習：トラスの種類及び解法について理解するよう演習すること</p> <p>【第2回】 予習：節点法を理解しておくこと 授業：トラス 節点法によるトラスの解法 復習：節点法について理解するよう演習すること</p> <p>【第3回】 予習：切断法を理解しておくこと 授業：トラス 切断法によるトラスの解法 復習：切断法について理解するよう演習すること</p> <p>【第4回】 予習：断面積・断面1次モーメントを理解しておくこと 授業：断面に関する数量-1 復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第5回】 予習：断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径を理解しておくこと 授業：断面に関する数量-2 復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第6回】 予習：これまで扱った断面に関する数量を理解しておくこと 授業：断面に関する数量-3 復習：断面に関する数量について理解するよう演習すること</p> <p>【第7回】 予習：応力度の概念を理解しておくこと 授業：応力度-1 復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第8回】 予習：曲げ・せん断応力度を理解しておくこと 授業：応力度-2 復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第9回】 予習：引張・圧縮応力度を理解しておくこと 授業：応力度-3 復習：応力度について理解するよう演習すること</p> <p>【第10回】 予習：不静定構造物を理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-不静定構造物の原理と基礎的解法 復習：不静定構造物の基礎について理解するよう演習すること</p> <p>【第11回】 予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-固定法 復習：固定法について理解するよう演習すること</p> <p>【第12回】 予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-たわみ角法 復習：たわみ角法について理解するよう演習すること</p> <p>【第13回】</p>			

予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-ラーメン構造とD値法 復習：D値法について理解するよう演習すること 【第14回】 予習：塑性解析について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎-全塑性モーメントと不静定梁の崩壊 復習：全塑性モーメントについて理解するよう演習すること 【第15回】 予習：保有水平耐力について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎-不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力 復習：保有水平耐力について理解するよう演習すること								
授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学A及び数学B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題（学芸出版）							
参考書	図説やさしい建築数学（学生出版）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験60%、小テスト40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							

科目名称	建築構造 I		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Structure I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できる。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。		
到達目標	木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業：ガイダンス、概論 復習：概論について理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】 予習：前回授業の内容を理解しておくこと 授業：歴史的建造物の構造 復習：歴史的建造物の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 3 回】 予習：歴史的建造物の構造を理解しておくこと 授業：近代建築の構造とデザインの発展 復習：近代建築の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 4 回】 予習：近代建築の構造とデザインの発展を理解しておくこと 授業：民家および在来工法 復習：民家および在来工法について理解するよう努める</p> <p>【第 5 回】 予習：民家および在来工法を理解しておくこと 授業：木材の性質と構造原理 復習：木材の性質と構造原理について理解するよう努める</p> <p>【第 6 回】 予習：木材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業：木造の小屋組 復習：木造の小屋組について理解するよう努める</p> <p>【第 7 回】 予習：木造の小屋組を理解しておくこと 授業：木造の軸組 復習：木造の軸組について理解するよう努める</p> <p>【第 8 回】 予習：木造の軸組を理解しておくこと 授業：地盤・基礎 復習：地盤・基礎について理解するよう努める</p> <p>【第 9 回】 予習：地盤・基礎を理解しておくこと 授業：屋根の形状 復習：屋根の形状について理解するよう努める</p> <p>【第 10 回】 予習：屋根の形状を理解しておくこと 授業：壁の構造と構法 復習：壁の構造と構法について理解するよう努める</p> <p>【第 11 回】 予習：壁の構造と構法を理解しておくこと 授業：集成材の構造 復習：集成材の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 12 回】 予習：集成材の構造を理解しておくこと 授業：工業化住宅の構造-1 復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：工業化住宅の構造-2 復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める 【第14回】 予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：地震と構造 復習：地震と構造について理解するよう努める 【第15回】 予習：地震と構造を理解しておくこと 授業：評価 復習：今学期の配布資料を熟読し、内容を把握するよう努める								
授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等に見られる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。							
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）							
参考書								
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニトペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニトペーパー 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。							

科目名称	建築構造 II		
科目分類	142-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Structure II	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	建物は材料と構法の組み合わせによって成立する。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。		
到達目標	鋼構造及び鉄筋コンクリート構造建物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業：ガイダンス 復習：配布資料を熟読し、授業内容を理解するよう努める</p> <p>【第 2 回】 予習：ガイダンスを理解しておくこと 授業：鋼材の性質と構造原理 復習：鋼材の性質と構造原理について理解するよう努める</p> <p>【第 3 回】 予習：鋼材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業：鉄骨構造の骨組 復習：鉄骨構造の骨組について理解するよう努める</p> <p>【第 4 回】 予習：鉄骨構造の骨組を理解しておくこと 授業：鉄骨構造の継手・筋かい 復習：鉄骨構造の継手・筋かいについて理解するよう努める</p> <p>【第 5 回】 予習：鉄骨構造の継手・筋かいを理解しておくこと 授業：鉄骨構造の溶接 復習：鉄骨構造の溶接について理解するよう努める</p> <p>【第 6 回】 予習：鉄骨構造の溶接を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの原理 復習：鉄筋コンクリートの原理について理解するよう努める</p> <p>【第 7 回】 予習：鉄筋コンクリートの原理を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの構造形式 復習：鉄筋コンクリートの構造形式について理解するよう努める</p> <p>【第 8 回】 予習：鉄筋コンクリートの構造形式を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの配筋-柱 復習：鉄筋コンクリートの柱配筋について理解するよう努める</p> <p>【第 9 回】 予習：鉄筋コンクリートの柱配筋を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの配筋-梁 復習：鉄筋コンクリートの梁配筋について理解するよう努める</p> <p>【第 10 回】 予習：鉄筋コンクリートの梁配筋を理解しておくこと 授業：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理 復習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理について理解するよう努める</p> <p>【第 11 回】 予習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理を理解しておくこと 授業：PC 構造の原理と力学的性状 復習：PC 構造の原理と力学的性状について理解するよう努める</p> <p>【第 12 回】 予習：PC 構造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業：ブロック造の原理と力学的性状 復習：ブロック造の原理と力学的性状について理解するよう努める</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習：ブロック造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業：壁構造の種類と構造原理 復習：壁構造の種類と構造原理について理解するよう努める 【第14回】 予習：壁構造の種類と構造原理を理解しておくこと 授業：風や積雪と構造 復習：風や積雪と構造について理解するよう努める 【第15回】 予習：風や積雪と構造を理解しておくこと 授業：評価 復習：今学期の配布資料を熟読し、全ての内容を理解するよう努める								
授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等に見られる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。							
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）							
参考書								
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニトーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニトーパー 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。							

科目名称	建築材料		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Architectural Materials	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40~16:10 水曜日 10:40~12:10 後期 水曜日 13:00~14:30 金曜日 10:40~12:10	研究室	1-210
授業概要	建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。構造材料においては、主に材料の力学的性質について講義する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても講義する。		
到達目標	建築物を構成する各材料を知識として習得し、設計時の適材適所を考えられるようになる。また、材料を選択するときに安全性・居住性・生産性・耐久性・環境性を考慮できるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキストを読む 授業：ガイダンス、鉄筋コンクリート構造に用いる材料 I 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第2回】 予習：テキストを読む 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 II 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第3回】 予習：テキストを読む 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 III 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第4回】 予習：テキストを読む 授業：木構造に用いる材料 I 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第5回】 予習：テキストを読む 授業：木構造に用いる材料 II 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第6回】 予習：テキストを読む 授業：鋼構造に用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第7回】 予習：テキストを読む 授業：組積造に用いる材料、膜構造に用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第8回】 予習：テキストを読む 授業：屋根の機能と屋根材、防水材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第9回】 予習：テキストを読む 授業：外壁の機能と各種外壁材 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第10回】 予習：テキストを読む 授業：開口部の機能と建具、ガラス 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第11回】 予習：テキストを読む 授業：床の機能と床材 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第12回】 予習：テキストを読む 授業：間仕切部位の機能と用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。</p> <p>【第13回】</p>			

<p>予習 : テキストを読む 授業 : 塗料、接着剤、シーリング材 復習 : テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第 14 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 耐火・防火材料、断熱材料、吸音・遮音材料 復習 : テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。 【第 15 回】 予習 : テキスト全体を通読しておく。また講義にも持参すること。 授業 : 建築材料と環境 復習 : 講義全体を通して、疑問や理解不足が無いようにする。</p>								
授業開始前学習	事前に教科書を一読しておくことを勧める。							
授業内課題の フィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。 レポートは、後日返却し解説する。							
テキスト・教材	建築材料新テキスト（彰国社）							
参考書	構造用教材（日本建築学会）							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパー、レポートで評価を行う。配点は、定期試験 30%、小テスト 20%、ミニットペーパー30%、レポート 20%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	建築構造Ⅰ、建築構造Ⅱ、建築生産							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築物を構成する材料の基本的性質や特徴などを講義する。							

科目名称	建築生産		
科目分類	142-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Production of Architecture	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を取得する。		
到達目標	1.建築生産プロセスと施工の流れについて理解する。 2.一般的な建築物の躯体および各部の構法原理を理解する。 3.建築現場における施工方法とその管理方法について理解する。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス確認 授業：建築生産の概要 復習：建築生産の内容および流れ</p> <p>【第2回】 予習：テキストを読む 授業：我が国の建築生産の現状 経済活動と建築生産 復習：建築生産における施工の位置づけ</p> <p>【第3回】 予習：テキストを読む 授業：建築プロジェクトに関わる産業構造 復習：住宅の生産方式</p> <p>【第4回】 予習：テキストを読む 授業：建築プロジェクトの経済評価と企画 復習：一般建設業の分業体制</p> <p>【第5回】 予習：テキストを読む 授業：発注と契約 復習：請負方式の特徴 工事契約の方法</p> <p>【第6回】 予習：テキストを読む 授業：建築設計業務と設計監理業務の内容 復習：基本設計、実施設計、工事監理業務の内容</p> <p>【第7回】 予習：テキストを読む 授業：建築工事のコスト管理手法（配布資料） 復習：建築工事原価と実行予算</p> <p>【第8回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理1 基礎工事 復習：基礎の種類と特徴、施工法</p> <p>【第9回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理2 躯体工事（木造） 復習：在来軸組構法及び枠組壁工法の特徴と施工法</p> <p>【第10回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理3 躯体工事（RC造） 復習：鉄筋、型枠、コンクリート工事の品質管理方法</p> <p>【第11回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理4 躯体工事（S造） 復習：鋼材の種類 建方方法 接合方法</p> <p>【第12回】 予習：テキストを読む 授業：建築施工管理5 仕上げ工事（外装工事） 復習：外装工事の構・工法と必要性能</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 6 仕上げ工事 (内装工事・木工事) 復習 : 壁、床、天井の下地及び仕上げの特徴 【第 14 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 7 設備工事 復習 : 電気、衛生、空調、エレベーター工事の特徴 【第 15 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築のライフサイクルと維持保全 復習 : コンバージョン、リノベーションの内容 所有価値から利用価値へ								
授業開始前学習	街中の建築工事現場で見られる建物の骨組や自宅や学校など身近な建物の内外装仕上げを、日頃から意識して見るようにし、その機能や施工方法について考えるようにすると、授業に興味を持って取り組むことができる。							
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	改訂版図説やさしい建築施工 (学芸出版社)							
参考書	構造用教材 (日本建築学会)							
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパーで評価を行う。配点は、定期試験 40%、小テスト 30%、ミニットペーパー 30%の配分とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目	建築の意匠、構造、設備、法規といった、建築に関する多くの要素が関連することから、日頃より建築に関する基礎的な内容について、広く理解していることが必要である。							
その他	住宅を含めた建築を生産するしくみを、各産業と生活を結びつけるデザインという観点から概説することで、建築と社会との関わりを多角的かつ詳細に解説する講義であるため、新聞、関連雑誌等の up-to-date な話題にも積極的に興味を示してもらいたい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築生産のしくみと施工方法などを講義する。							

科目名称	☆建築法規／建築法規 I		
科目分類	142-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Building Regulation I	授業区分	講義
科目責任者	加藤 陽介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 陽介	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない、そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。建築法規 I では、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。		
到達目標	建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：建築基準法の必要性について考察する 授業：講義概要 復習：地域における建築基準法の意義について考察する</p> <p>【第 2 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：建築基準法の概要（テキスト10頁～23頁） 復習：建築基準法設立の過程を確認する</p> <p>【第 3 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：建築確認制度（テキスト158頁～168頁） 復習：確認申請等の法手続きを確認する</p> <p>【第 4 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：用語の定義 その1（テキスト24頁～29頁） 復習：建築基準法用語を確認する</p> <p>【第 5 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：用語の定義 その2（テキスト24頁～29頁） 復習：建築基準法用語を確認する</p> <p>【第 6 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：面積・高さ・階数の算定（テキスト29頁～36頁） 復習：容積率等の計算方法を確認する</p> <p>【第 7 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：一般構造：採光、換気（テキスト38頁～44頁） 復習：採光計算を確認する</p> <p>【第 8 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：一般構造：階段、廊下等（テキスト45頁～52頁） 復習：廊下幅等の最低条件を確認する</p> <p>【第 9 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 1（テキスト56頁～84頁） 復習：構造計算のプロセスを確認する</p> <p>【第 10 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 2（テキスト56頁～84頁） 復習：構造計算手法を確認する</p> <p>【第 11 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 演習 復習：演習における疑問点を整理する</p> <p>【第 12 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：防火と避難 1（テキスト85頁～108頁） 復習：建物の災害時の安全性について考察する</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 防火と避難 2 (テキスト85頁～108頁) 復習 : 防火・避難既定のあらましを確認する 【第14回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 建築設備についての規定 (テキスト52頁～54頁) 復習 : 建築設備の概要を確認する 【第15回】 予習 : 演習等で理解できなかった点を整理する 授業 : 前期のまとめ 復習 : 単体既定の概要の確認をする								
授業開始前学習	前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。							
授業内課題のフィードバックの方法	疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。							
テキスト・教材	初回授業で指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	ミニテスト 50%、レポート・演習問題等 40%、授業態度 10%で評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他	演習に電卓を必要とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	図学と透視画の基礎		
科目分類	140-311-11 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics	授業区分	講義
科目責任者	李・堀邊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・小鹿・堀邊・秋山	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。		
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第1回】 予習 : 「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業 : ガイダンス p002-009 復習 : 必要製図用具を確認し、用意する</p> <p>【第2回】 予習 : 製図用具の確認と持参 授業 : 基礎平面図形(1) (演習課題) 復習 : 3次元を表す2次元図面名を覚える</p> <p>【第3回】 予習 : 先回に書いた図面を確認、持参 授業 : 基礎平面図形(2) (演習課題) 復習 : 基礎平面図形配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第4回】 予習 : 正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(1) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第5回】 予習 : 正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(2) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第6回】 予習 : 内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業 : 内観パース(1) 住宅 (グリッド法 a) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第7回】 予習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図の状況を確認 授業 : 内観パース(2) 住宅 (グリッド法 a) 着彩 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(2) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第8回】 予習 : 内観パース (3) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(3) 住宅 (グリッド法 b) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(3) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第9回】 予習 : 内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着彩用具準備 授業 : 内観パース(4) 住宅 (グリッド法 b) 着彩 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(4) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第10回】 予習 : 内観パース (5) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(5) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(5) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第11回】 予習 : 内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業 : 内観パース(6) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(6) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第12回】 予習 : 事前配布資料を確認、予習 授業 : 外観パース(1) 商業施設 (D点法) (演習課題) 復習 : 外観パース(1) 配布資料と作成した図を確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業 : 外観パース(2) 商業施設 (D 点法) (演習課題) 復習 : 外観パース(2)配布資料と作成した図を確認 【第 14 回】 予習 : 外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業 : 外観パース(3) 商業施設 (D 点法) 着彩 (演習課題) 復習 : 外観パース(3)配布資料と作成した図を確認 【第 15 回】 予習 : ここまでの各自の提出物状況を確認 授業 : 講評 復習 : 作成してきた図をすべて確認								
授業開始前学習	製図の基礎 の学習内容を確認しておくと理解しやすい							
授業内課題の フィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。							
テキスト・教材	村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』(市ヶ谷出版社) その他、適宜必要資料を配布							
参考書								
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	製図の基礎							
その他	製図用具一式、着色画材等を持参すること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	本科目担当教員のうち、佐藤は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。その指導経験を活かし、建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習を行う。							

科目名称	平面と立体表現の基礎		
科目分類	140-311-11	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics	授業区分	講義
科目責任者	鈴木・堀邊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)・手塚・堀邊	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。		
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習：道具の使い方練習</p> <p>【第2回】 予習：立方体の作成 授業：スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習：提出課題の自習</p> <p>【第3回】 予習：事例検索 授業：課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成） 復習：提出課題の自習</p> <p>【第4回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅰ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第5回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅰ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第6回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅰ 講評及び課題Ⅱ 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習：課題内容の確認</p> <p>【第7回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第8回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第9回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅱ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第10回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅱ 講評及び課題Ⅲ 説明（上記2課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習：課題内容の確認</p> <p>【第11回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第12回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲ エスキース 復習：提出課題の自習</p> <p>【第13回】</p>			

予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習 【第14回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習 【第15回】 予習：発表準備 授業：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習：授業プロセスの振り返り								
授業開始前学習	出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事							
授業内課題のフィードバックの方法	各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。							
テキスト・教材	特になし							
参考書	適宜紹介する							
評価の基準と方法	課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100点満点に於ける）は、課題評価 40点・エスキース 20点・授業に対する取り組み 40点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		△	
関連科目	建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門							
その他	模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）							
予習・復習の所要時間	講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	CADⅢ		
科目分類	140-331-22	単位数	履修ガイド参照
英文名称	CADⅢ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三宅 貴之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 貴之	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	VecterWorks(CAD ソフト)を用いて、三次元データを CG にするための技能を習得する。 また、他のアプリケーションを用いて、効果的なプレゼンテーション表現についても学ぶ。		
到達目標	CAD ソフト、画像処理ソフト等を用いて、図面、3D パースなどを含むプレゼンテーション資料が作成できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：授業準備 授業：概要、3D ボリューム作成レビュー 復習：授業計画の確認</p> <p>【第 2 回】 予習：3D フィレットと NURBS 曲線等 事前学習 授業：3D フィレットと NURBS 曲線等 復習：3D フィレットと NURBS 曲線等 見直し</p> <p>【第 3 回】 予習：課題演習 a ボリューム作成補足 事前学習 授業：課題演習 a ボリューム作成補足 復習：課題演習 a ボリューム作成補足 見直し</p> <p>【第 4 回】 予習：課題演習 b テクスチャについて 事前学習 授業：課題演習 b テクスチャについて 復習：課題演習 b テクスチャについて 見直し</p> <p>【第 5 回】 予習：課題演習 c マッピングについて 事前学習 授業：課題演習 c マッピングについて 復習：課題演習 c マッピングについて 見直し</p> <p>【第 6 回】 予習：課題演習 d テクスチャの編集と作成 事前学習 授業：課題演習 d テクスチャの編集と作成 復習：課題演習 d テクスチャの編集と作成 見直し</p> <p>【第 7 回】 予習：課題演習 e ライティング 1 事前学習 授業：課題演習 e ライティング 1 復習：課題演習 e ライティング 1 見直し</p> <p>【第 8 回】 予習：課題演習 f ライティング 2 事前学習 授業：課題演習 f ライティング 2 復習：課題演習 f ライティング 2 見直し</p> <p>【第 9 回】 予習：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 事前学習 授業：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 復習：課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 見直し</p> <p>【第 10 回】 予習：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 事前学習 授業：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 復習：課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 見直し</p> <p>【第 11 回】 予習：課題演習 i 3D データの補足 事前学習 授業：課題演習 i 3D データの補足 復習：課題演習 i 3D データの補足 見直し</p> <p>【第 12 回】 予習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 事前学習 授業：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 復習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 見直し</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 課題演習 k 添景を合成する 事前学習 授業 : 課題演習 k 添景を合成する 復習 : 課題演習 k 添景を合成する 見直し 【第 14 回】 予習 : 課題演習 l CG 完成作業 事前学習 授業 : 課題演習 l CG 完成作業 復習 : 課題演習 l CG 完成作業 見直し 【第 15 回】 予習 : 全授業内容の再確認 授業 : まとめ 復習 : 見直し								
授業開始前学習	「CAD I」「CAD II」で学習した Vectorworks の 2 次元、3 次元の基本的操作を復習しておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。							
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する。							
参考書	「10 日間でマスター！ Vectorworks」(エクサナレッジムック)							
評価の基準と方法	出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	
関連科目	CAD I、CAD II							
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「CAD II」までの単位を取得していること。 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	プレゼンテーション技法		
科目分類	140-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Presentation Techniques	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・鈴木(利)	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	CADにて取得してきた VectorWorks(CAD ソフト)の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合して、よりレベルの高い建築、インテリア等のプレゼンテーションを学ぶ。		
到達目標	VectorWorks(CAD ソフト)の 2D,3D の上級技能を習得し、手書きスケッチやグラフィックソフト等と融合して建築、インテリア等のプレゼンテーション能力向上を目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)			
<p>【第 1 回】 予習 : CADII の内容を復習しておく 授業 : 概要 復習 : 基本 3D ボリューム作成技法を確認</p> <p>【第 2 回】 予習 : 習得済みの CAD 技能を復習しておく 授業 : CAD 技能レビュー (実習) 復習 : CAD 技能全般を見直す</p> <p>【第 3 回】 予習 : cad の 3D 表現の活用、レンダリングを確認しておく 授業 : 課題演習 a cad の 3D 表現の活用、陰線消去 (実習) 復習 : 3D 表現の活用、陰線消去を復習</p> <p>【第 4 回】 予習 : 陰線消去を 活用したパース例を調べる 授業 : 課題演習 b 陰線消去活用によるパースの作成 (実習) 復習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る</p> <p>【第 5 回】 予習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る 授業 : 課題演習 c 陰線消去活用によるパースの作成 (実習) 復習 : 陰線消去活用によるパースの作成を進める</p> <p>【第 6 回】 予習 : Illustrator、Photoshop の機能を確認 授業 : 課題演習 d Illustrator、Photoshop による着色 (実習) 復習 : Illustrator、Photoshop による着色を復習する</p> <p>【第 7 回】 予習 : Illustrator、Photoshop による着色を進める 授業 : 課題演習 e Illustrator、Photoshop による着色 (実習) 復習 : Illustrator、Photoshop による着色を完成</p> <p>【第 8 回】 予習 : 添景を 使用したパースの例を調べる 授業 : 課題演習 f 添景の合成 (実習) 復習 : 添景の合成機能を復習する</p> <p>【第 9 回】 予習 : プレゼンテーションレイアウト例を調べる 授業 : 課題演習 g レイアウト演習 1 (実習) 復習 : レイアウトを進める</p> <p>【第 10 回】 予習 : 理解し易いプレゼンテーションを研究する 授業 : 課題演習 h プレゼンテーション演習 1 (実習) 復習 : プレゼンテーション資料作成を進める</p> <p>【第 11 回】 予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完例を調べる 授業 : 課題演習 i グラフィックソフトによるスケッチ補完 (実習) 復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完技術を復習</p> <p>【第 12 回】 予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完を進める 授業 : 課題演習 j グラフィックソフトによるスケッチ補完 (実習) 復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完の完成</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : レイアウトエスキース案をつくる 授業 : 課題演習 k レイアウト演習 2 (実習) 復習 : レイアウトを進める 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションに向けての作業を進める 授業 : 課題演習 l プレゼンテーション演習 2 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : プレゼンテーションをレビューし次なる課題の発見を行う 【第 15 回】 予習 : 提出課題をレビューしておく 授業 : まとめ (講評) 復習 : 提出課題への講評をレビューする								
授業開始前学習	CAD II の内容を復習しておく							
授業内課題の フィードバックの方法	制作時の質問には可能な限り都度回答する。また各自の制作状況を公開することで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する							
参考書	「10 日間でマスター！ Vectorworks」(エクснаレッジムック)							
評価の基準と方法	課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。 授業を 3 分の 1 以上欠席した学生は単位を取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	
関連科目	CAD II							
その他	その他 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	デザイン分野における実務経験を生かし、CAD やグラフィックソフトを用いたプレゼンテーションができるよう演習をおこなう。							

科目名称	インテリアデザイン論		
科目分類	141-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30 後期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30	研究室	1-202
授業概要	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための論である。 インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。 要素、要因の観点は多種多様であるが、この論では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。 その内容を各自が問題意識を持ち、研究・習得する。授業では小課題のグループ発表などを行う。		
到達目標	インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけること。それらの知識をふまえ、小課題やレポートを通して、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み込んでおく 授業：ガイダンス 復習：授業のテーマと目的を良く理解しておく（小課題1）</p> <p>【第2回】 予習：インテリアデザインと聞いてイメージするキーワードの考察 授業：インテリアデザインとは（小課題1 グループ発表） 復習：インテリアデザインの領域の再確認</p> <p>【第3回】 予習：住まい以外の好きな空間 授業：何も無かった空間 復習：インテリアデザインの用途別分類（小課題2）</p> <p>【第4回】 予習：日本と海外の住まいの違い 授業：様々な空間（小課題2 グループ発表） 復習：日本と海外の空間の歴史とその違いと特徴を認識</p> <p>【第5回】 予習：自分の家の玄関のリサーチ 授業：靴を脱ぐ住まい 復習：玄関、畳の名称や寸法</p> <p>【第6回】 予習：季節の行事 授業：人の動作、行動と寸法 復習：モジュールについて（小課題3）</p> <p>【第7回】 予習：自分の部屋にある家具の確認 授業：家具の役割（小課題3 グループ発表） 復習：家具の種類、用途の再確認</p> <p>【第8回】 予習：自分の部屋の収納量をリサーチ 授業：収納 復習：部屋別の収納家具やその寸法、デザインの再確認</p> <p>【第9回】 予習：自分の部屋の照明のリサーチ 授業：自然のあかりと人工のあかり 復習：あかりの種類の確認（小課題4）</p> <p>【第10回】 予習：自分のキッチンのリサーチ 授業：台所、風呂、便所（小課題4 グループ発表） 復習：キッチン、風呂、トイレに使われている素材の確認</p> <p>【第11回】 予習：自分の寝室のリサーチ 授業：寝室、玄関 復習：寝室、玄関に使われている素材の確認</p> <p>【第12回】 予習：自分の家の中に使われている素材の整理 授業：素材1 復習：自分の家の床・壁・天井など素材を確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : 自分の好きな素材・色を探す 授業 : 素材 2 復習 : 素材の種類、トレンドの確認 【第 14 回】 予習 : 自分の好きな家具のデザイン 授業 : まとめ 1 復習 : 室内環境の再認識 【第 15 回】 予習 : 自分の好きなインテリアスタイル 授業 : まとめ 2 復習 : 15 回の授業内容を良く理解しておく								
授業開始前学習	「図学と透視画の基礎」授業で使用した教科書「新しいインテリアデザインの実技」第 1 章 1 - 1 と 1 - 2 をよく読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	小課題ワークシート提出後の授業でグループ発表と講評を行う。							
テキスト・教材	授業に必要な資料は指示、又は配布する。 作業に必要な用具、教材は指示に応じて各自用意する。							
参考書	授業にあわせて、推選図書、参考書を紹介する。							
評価の基準と方法	小課題と最終レポート、受講態度等を総合して評価する。 配点（100 点満点における）は、小課題等 20 点、受講態度等 30 点、最終レポート 50 点の配分とする。 出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザイン I、インテリアデザイン II							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築、インテリアデザインの実務経験あり。建築・インテリアデザイン分野の実務に役立つ内容について講義する。							

科目名称	インテリアデザイン計画 A		
科目分類	141-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design A	授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40~16:10 木曜日 14:40~16:10 後期 火曜日 13:00~14:30 木曜日 14:40~16:10	研究室	1-206
授業概要	住宅のインテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話を朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察し、学んでいく。実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目的とする。授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを読み込んでおく 授業：ガイダンス 復習：授業のテーマと目的を良く理解しておく</p> <p>【第 2 回】 予習：インテリアデザインでイメージすることを整理 授業：住空間インテリアデザイン概論（演習課題 1） 復習：住空間のインテリアデザインの領域の再確認</p> <p>【第 3 回】 予習：自分の家のエントランス空間をリサーチ 授業：エントランス空間（演習課題 2） 復習：自分の家のエントランス空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 4 回】 予習：自分の家のリビング空間のリサーチ 授業：リビング空間（演習課題 3） 復習：自分の家のリビング空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 5 回】 予習：自分の家のダイニング空間のリサーチ 授業：ダイニング空間（演習課題 4） 復習：自分の家のダイニング空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 6 回】 予習：自分の家のいちばん人が集うところをリサーチ 授業：実測① 人が集う空間のスケール把握（グループワーク 1）（グループ発表 1） 復習：実測①の分析資料を作成</p> <p>【第 7 回】 予習：自分の家のキッチン空間のリサーチ 授業：キッチン空間（演習課題 5） 復習：自分の家のキッチン空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 8 回】 予習：自分の家の働く空間のリサーチ 授業：働く空間（演習課題 6） 復習：自分の家の働く空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 9 回】 予習：自分の家のサニタリー空間をリサーチ 授業：サニタリー空間（演習課題 7） 復習：自分の家のサニタリー空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 10 回】 予習：自分の家の機能的な空間をリサーチ 授業：実測② 機能的空間のスケール把握（グループワーク 2）（グループ発表 2） 復習：実測②の分析資料を作成</p> <p>【第 11 回】 予習：自分の家の寝室空間のリサーチ 授業：寝室空間（演習課題 8） 復習：自分の家の寝室空間の部材・素材の確認</p> <p>【第 12 回】 予習：自分の家または、知人の子供の空間のリサーチ 授業：子供のための空間（演習課題 9） 復習：自分の家または知人の子供の空間の部材・素材の確認</p>			

<p>【第13回】 予習：自分がイメージする和のキーワード、機能などリストアップ 授業：和の空間（演習課題10） 復習：自分の家の中の和空間の部材・素材の確認</p> <p>【第14回】 予習：自分の家の個人的な空間をリサーチ 授業：実測③ 個人的空間のスケール把握（グループワーク3）（グループ発表3） 復習：実測③の分析資料を作成</p> <p>【第15回】 予習：自分の好きな住空間を探してくる（雑誌などで） 授業：講評（課題発表1） 復習：15回の授業内容をよく理解しておく</p>								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。暮らしている住まいの空間を出来るだけ観察するように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。課題発表やグループ発表では、講評を行う。							
テキスト・教材	授業中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書	講義中に指示する。							
評価の基準と方法	事例研究レポート・見学レポート・授業態度を総合して評価。配点は、研究レポート30点、見学レポート40点、平常点（授業態度・課題提出・授業内演習）30点。出席回数が授業の3分の2未満は単位取得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ							
その他	学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアデザイン計画 B		
科目分類	141-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design B	授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝昼晩といった時間経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性和それらの構築方法を「シーンメイクスぺースデザイン」を通して理解してゆくことを目的とする。		
到達目標	自身が対峙する空間の「課題」が明確にでき、「コンセプト」「ターゲット設定」「提供価値」と必然となる具体解決提案に結びつけることができるようになること。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを一読俯瞰し、授業進行概要を把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンス内容と自身の学習目的を確認する。</p> <p>【第 2 回】 予習：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業：シーンメイクスぺースデザイン概論 復習：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。</p> <p>【第 3 回】 予習：空間の情緒的要素を伝達する方法を考えておく。 授業：空間計画にける脚本づくり 復習：身近な空間の情報を文章化してみる。</p> <p>【第 4 回】 予習：「価値」という言葉の意味を調べておく。 授業：空間価値 復習：自身の興味ある商業店舗の空間価値を考えてみる。</p> <p>【第 5 回】 予習：「らしさ」と「共通イメージ」という言葉の意味を調べておく。 授業：「らしさ」と「共通イメージ」 復習：頭の中に浮かぶイメージをキーワードとして記述してみる。</p> <p>【第 6 回】 予習：自身が行うデザインはいつもどこから出てくるのかを考えておく。 授業：デザインのプロセス 復習：イメージとデザインの関係性を再確認する。</p> <p>【第 7 回】 予習：デザインと企画の差異について考えておく。 授業：空間構築のコンセプト（1） 復習：デザイン行為において文字をあつかうことを実践してみる。</p> <p>【第 8 回】 予習：紙面やWEBで頻繁に目にするキーワードを調べておく。 授業：空間構築のコンセプト（2） 復習：時代のキーワードについて考えてみる。</p> <p>【第 9 回】 予習：デザインや制作の目的について考えておく。 授業：空間構築の目標設定 復習：5w1hについて再確認する。</p> <p>【第 10 回】 予習：自身の商品・サービスの購入基準は何か考えておく。 授業：空間の「機能価値」と「意味的価値」（1） 復習：良いコミュニケーションとはなにかを再確認する。</p> <p>【第 11 回】 予習：健康志向について調べておく。 授業：環境と衛生 復習：配布資料を再読し、環境と衛生について理解を深める。</p> <p>【第 12 回】 予習：「属性」の意味を調べておく。 授業：「イメージ」と「デザイン」（1） 復習：配布資料を再読し、「イメージ」について理解を深める。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：配布資料に記載の「イメージ」と「デザイン」のキーワードを理解しておく。 授業：「イメージ」と「デザイン」（２） 復習：配布資料を再読み、「イメージ」と「デザイン」の関係について理解を深める。 【第 14 回】 予習：3 R について調べておく 授業：環境配慮設計 復習：集客施設における環境配慮事例を調べてみる。 【第 15 回】 予習：講義内容を振り返り、疑問点があれば抽出しておく。 授業：講評 復習：本講義で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義中にフィードバックする。							
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	評価の配点は、出席状況を 70 点満点、2 回の課題内容・提出期限を 30 点満点の配分とする。 出席が 10 回以下（講義回数の 3 分の 2 回）、または 2 題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザイン I、インテリアデザイン計画 C							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							

科目名称	インテリアデザイン計画 C		
科目分類	141-331-13 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design C	授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時に多様なインテリアデザインのフィールドとその事例を通して、「シーンメイクスペースデザイン」におけるコミュニケーションとプレゼンテーションの重要性も理解してゆく。		
到達目標	常に世の中の最新動向と問題点に目を向ける意識向上。自身のコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルにおける課題の自覚とその克服を目指した向上指針を明確にする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを俯瞰し、授業進行を把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンス内容と自身の目的を確認する。</p> <p>【第 2 回】 予習：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業：シーンメイクスペースデザイン概論 復習：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。</p> <p>【第 3 回】 予習：情景という観点で、自身の興味ある対象空間の良さを考えておく。 授業：シーンの構成要素 復習：講義で得た思考、理論、概念を元に身近な実空間で考察してみる。</p> <p>【第 4 回】 予習：空間にかかわるデザインの領域をおよび分野を調べておく。 授業：デザインのフィールド 復習：配布資料を再読し、デザインのフィールドを再確認する。</p> <p>【第 5 回】 予習：近年話題の商業施設を調べておく。 授業：商業施設 復習：配布資料を再読し、特に開発コンセプトについての理解を深める。</p> <p>【第 6 回】 予習：ディスプレイデザインについて調べておく。 授業：ディスプレイデザイン（1） 復習：講義で紹介された、実デザインを net や文献で再確認する。</p> <p>【第 7 回】 予習：空間における I C T ツール（映像や装置など）について調べておく。 授業：ディスプレイデザイン（2） 復習：講義で得た知識の基づきデザインのメッセージ性についての理解を深める。</p> <p>【第 8 回】 予習：ホテル＆リゾートにおける集客のキャッチコピーを数点調べておく。 授業：ホテル＆リゾート（1） 復習：配布資料を再読し、多様なホテルブランドの成り立ちについての理解を深める。</p> <p>【第 9 回】 予習：近年話題のホテル＆リゾート施設を調べておく。 授業：ホテル＆リゾート（2） 復習：ホテル＆リゾートに対する多様なニーズとコンセプトを再確認する。</p> <p>【第 10 回】 予習：舞台やステージ演出に必要と思われる要素を調べておく。 授業：ステージセット（舞台美術） 復習：舞台美術の演出構成要素を再確認する。</p> <p>【第 11 回】 予習：テーマパークの非日常性について考えておく。 授業：テーマパーク 復習：ストーリーの重要性を認識し、大学の課題や自身のポートフォリオ制作に活用する。</p> <p>【第 12 回】 予習：「コンセプト」と「イメージ」の違いについて調べておく。 授業：コンセプチュアルアーキテクチャー 復習：配布資料を再読し、建築計画におけるコンセプトの必要性を再認識する。</p> <p>【第 13 回】</p>			

<p>予習：自身のポートフォリオなどプレゼンテーションツールの強み弱みを認識しておく。 授業：プレゼンテーション 復習：講義内容を自身の目標と照らし合わせ、プレゼンにおける自身の問題点と課題を明確にする。 【第14回】 予習：知財とはなにか？を調べておく。 授業：著作権と意匠法 復習：特許庁HPなどを参考に知財について理解を深める。 【第15回】 予習：授業内容を振り返り、疑問点質問があれば抽出しておく。 授業：講評 復習：授業で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。</p>								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義内に全員へフィードバックする。							
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書								
評価の基準と方法	評価の配点は、出席状況を70点満点、2回の課題内容・提出期限を30点満点の配分とする。出席が10回以下（講義回数の3分の2回）、または2題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザインⅡ、インテリアデザイン計画B							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							

科目名称	インテリアデザイン I		
科目分類	141-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・リヴィエ	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	飲食店舗にはレストラン、カフェ、バー、屋台などのさまざまな種類と特徴がある。課題を通して、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する。設計条件の把握、飲食店舗の機能や要素の理解、飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得する。授業では実習および中間・最終プレゼンテーションを行う。		
到達目標	課題の主旨を正しく理解し、適切な問題設定の下にインテリアを計画すること。そのインテリアの目的に合う適切な手法で、空間を正確に表現できること。またその内容を人に的確に伝えられること。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス 課題①出題 復習：課題① 参考事例調査</p> <p>【第 2 回】 予習：テキスト 001 項～010 項、コンセプトの検討 授業：エスキース・作業①－1（実習） 復習：条件の整理、制作作業</p> <p>【第 3 回】 予習：テキスト 011 頁～034 頁、計画の検討 授業：エスキース・作業①－2（実習） 復習：問題点の整理、制作作業</p> <p>【第 4 回】 予習：テキスト 047 頁～070 頁、立体表現の検討 授業：エスキース・作業①－3（実習） 復習：制作作業</p> <p>【第 5 回】 予習：講評会準備 授業：課題①講評（プレゼンテーション） 課題②出題 復習：課題② 参考事例調査</p> <p>【第 6 回】 予習：参考事例調査、コンセプトの検討 授業：エスキース・作業②－1（実習） 復習：条件の整理</p> <p>【第 7 回】 予習：テキスト 010 頁～034 頁、平面計画の検討 授業：エスキース・作業②－2（実習） 復習：平面計画作業</p> <p>【第 8 回】 予習：テキスト 035 頁～046 頁、断面計画の検討 授業：エスキース・作業②－3（実習） 復習：断面計画作業</p> <p>【第 9 回】 予習：平面・断面計画の検討 授業：エスキース・作業②－4（実習） 復習：平面・断面計画作業</p> <p>【第 10 回】 予習：中間講評準備 授業：課題②中間講評（プレゼンテーション） 復習：コメントセッション資料自習</p> <p>【第 11 回】 予習：テキスト 072 頁～090 頁、模型表現の検討 授業：エスキース・作業②－5（実習） 復習：模型制作作業</p> <p>【第 12 回】 予習：模型制作作業 授業：エスキース・作業②－6（実習） 復習：模型制作ブラッシュアップ</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : テキスト 091 頁~106 頁、プレゼンテーションの検討 授業 : エスキース・作業②-7 (実習) 復習 : プレゼンテーション制作作業 【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション制作作業 授業 : エスキース・作業②-8 (実習) 復習 : プレゼンテーション制作作業 【第 15 回】 予習 : 最終講評準備 授業 : 課題②最終講評 (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションの整理									
授業開始前学習	教科書「新しいインテリアデザインの実技」の各章を読んでおくこと。								
授業内課題の フィードバックの方法	中間講評会及び最終講評会にて作品のプレゼンテーションと講評を行う。								
テキスト・教材	村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』(市ヶ谷出版社) このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。								
参考書	授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。								
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点(100 点満点における)は受講態度等 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当			△		○	◎	○		
関連科目	インテリアデザイン計画 B								
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。								
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)								
実務経験を活かした 教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員 2 名は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生がインテリアデザインの実務に役立つ実習を行う。								

科目名称	インテリアデザインⅡ		
科目分類	141-331-23 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Interior Design Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・駒井	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの設計プロセスを学ぶ。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に学習する。		
到達目標	課題の立地条件や客層をふまえた実践的なインテリアデザインの設計プロセスを課題演習の中で理解する。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得しながら、各自の計画内容をわかりやすく表現することを目標とする		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを読み確認する 授業：ガイダンス、課題①出題 復習：ガイダンスを受けて準備物の確認を行う</p> <p>【第2回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業①-1（実習） 復習：エスキース・作業①-1 復習 各自の詳細スケジュール作成</p> <p>【第3回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業①-2（実習） 復習：エスキース・作業①-2、各自内容再確認 資料整理</p> <p>【第4回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業①-3（実習） 復習：発表準備を進める</p> <p>【第5回】 予習：発表準備 授業：課題①講評、課題②出題（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習：課題①講評復習、課題②準備確認</p> <p>【第6回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-1（実習） 復習：エスキース・作業②-1 復習 スケジュール作成</p> <p>【第7回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-2（実習） 復習：エスキース・作業②-2、各自内容再確認 資料整理</p> <p>【第8回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-3（実習） 復習：エスキース・作業②-3、エスキース展開</p> <p>【第9回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-4（実習） 復習：エスキース・作業②-4、エスキース進展、発表準備</p> <p>【第10回】 予習：発表準備 授業：課題②中間講評（発表・講評・ディスカッション） 復習：中間講評内容レビュー、詳細スケジュール確認</p> <p>【第11回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-5（実習） 復習：エスキース・作業②-5、エスキース展開</p> <p>【第12回】 予習：エスキース準備 授業：エスキース・作業②-6（実習） 復習：エスキース・作業②-6、エスキース進展</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②-7 (実習) 復習 : エスキース・作業②-7、エスキース制作作業 【第 14 回】 予習 : エスキース準備 提出準備 授業 : エスキース・作業②-8 (実習) 復習 : エスキース・作業②-8 提出準備 【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題②最終講評 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : 講評レビュー								
授業開始前学習	宿泊施設の様々な事例を調べておくことを推奨する。							
授業内課題の フィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材	教科書 : 「新しいインテリアデザインの実技」市ヶ谷出版社 このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。							
参考書	授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は出席、受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点 (100 点満点における) は出席・受講態度 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満 (授業回数 3 分の 2 未満) の場合は、単位修得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	◎	○	
関連科目	インテリアデザイン計画 C							
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。 設計製図 I、インテリアデザイン I を履修済みであること。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容	複数の担当教員は共にホテルインテリアデザイナーとしての実務経験を生かし、宿泊施設のインテリアデザイン提案ができるよう演習をおこなう							

科目名称	インテリアのデザイン論／住空間とインテリアのデザイン		
科目分類	140-331-12 (J)	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Living Space and Interior Products	授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	現代の住空間は様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。 この授業では、それら様々なインテリアプロダクトの知識とともに住空間との関係を考え学んでいく。 授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	インテリアプロダクトの数々を通して、造形・素材・機能・サステナブル&ユニバーサルデザインの知識を得ること、住空間でのコーディネートスキルを高めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスを参照 授業：ガイダンス（インテリアプロダクトとは何か） 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】 予習：住まいの中の家具① 事前調査 授業：住まいと家具①（演習課題1） 復習：住まいの中の家具①のキーワードの確認</p> <p>【第3回】 予習：住まいの中の家具①配布資料の講読 授業：住まいと家具②（課題発表1） 復習：住まいと家具②のキーワードの確認</p> <p>【第4回】 予習：家具の実測 事前調査 授業：家具の実測・物のサイズ（グループワーク1）（グループ発表1） 復習：家具の実測・物のサイズのキーワードの確認</p> <p>【第5回】 予習：家具の実測・物のサイズ配布資料の講読 授業：住まいと明かり①（演習課題2） 復習：住まいと明かり①のキーワードの確認</p> <p>【第6回】 予習：住まいと明かり①配布資料の講読 授業：住まいと明かり②（課題発表2） 復習：住まいと明かり②のキーワードの確認</p> <p>【第7回】 予習：住まいと明かり②配布資料の講読 授業：住まいと家電（演習課題3） 復習：住まいと家電のキーワードの確認</p> <p>【第8回】 予習：住まいと家電配布資料の講読 授業：ショールーム見学（演習課題4） 復習：ショールーム見学レポートの作成</p> <p>【第9回】 予習：ショールーム見学レポートの発表準備 授業：ショールーム見学発表／ウィンドートリートメントについて（グループワーク2）（グループ発表2） 復習：ウィンドートリートメントのキーワードの確認</p> <p>【第10回】 予習：ウィンドートリートメント配布資料の講読 授業：住まいのしつらえ①（演習課題5） 復習：住まいのしつらえ①のキーワードの確認</p> <p>【第11回】 予習：住まいのしつらえ①配布資料の講読 授業：住まいのしつらえ②（課題発表3） 復習：住まいのしつらえ②のキーワードの確認</p> <p>【第12回】 予習：住まいのしつらえ②配布資料の講読 授業：住まいのしつらえ③ 復習：住まいのしつらえ③のキーワードの確認</p> <p>【第13回】</p>			

予習：住まいのしつらえ③配布資料の講読 授業：ユニバーサルデザインについて（演習課題6）（課題発表4） 復習：ユニバーサルデザインのキーワードの確認 【第14回】 予習：ユニバーサルデザイン配布資料の講読 授業：サステナブルデザインについて（演習課題7）（課題発表5） 復習：サステナブルデザインのキーワードの確認 【第15回】 予習：サステナブルデザイン配布資料の講読 授業：まとめ（演習課題8） 復習：全回の住空間とインテリアプロダクトのキーワードの確認								
授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なプロダクトを出来るだけ見るように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。							
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書	建築インテリア関係雑誌等。							
評価の基準と方法	事例研究レポート・見学レポート・ミニットペーパーを総合して評価。配点は、研究レポート40点、見学レポート40点、毎回の授業のミニットペーパー20点。ミニットペーパー提出をもって出席とみなし、授業回数の3分の2未満の提出は単位取得不可。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目	住空間とライフスタイル							
その他	学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容	インテリア・プロダクトデザイン分野における実務経験あり。インテリア・プロダクトデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目名称	インテリアの知識と技術 I		
科目分類	141-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design I	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 09:30～10:30 水曜日 12:30～14:30	研究室	2-201
授業概要	科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。		
到達目標	建築、インテリア関連資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術を総合的に理解することを目標にする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第 1 回】 予習：テキストの準備 授業：オリエンテーション 復習：テキストの確認</p> <p>【第 2 回】 予習：インテリアの歴史予習 授業：インテリアの歴史 復習：インテリアの歴史の復習</p> <p>【第 3 回】 予習：インテリア計画予習 授業：インテリア計画 復習：インテリア計画の復習</p> <p>【第 4 回】 予習：環境工学予習 授業：環境工学 復習：環境工学の復習</p> <p>【第 5 回】 予習：構造と施工予習 授業：構造と施工 復習：構造と施工の復習</p> <p>【第 6 回】 予習：表現技法 1 予習 授業：表現技法 1 復習：表現技法 1 の復習</p> <p>【第 7 回】 予習：表現技法 2 予習 授業：表現技法 2 復習：表現技法 2 の復習</p> <p>【第 8 回】 予習：演習 1 予習 授業：演習 1 復習：演習 1 の復習</p> <p>【第 9 回】 予習：色彩と造形予習 授業：色彩と造形 復習：色彩と造形の復習</p> <p>【第 10 回】 予習：建築関係法規予習 授業：建築関係法規 復習：建築関係法規の復習</p> <p>【第 11 回】 予習：住宅設備 1 予習 授業：住宅設備 1 復習：住宅設備 1 復習</p> <p>【第 12 回】 予習：住宅設備 2 予習 授業：住宅設備 2 復習：住宅設備 2 の復習</p> <p>【第 13 回】</p>			

予習 : 材料予習 授業 : 材料 復習 : 材料の復習 【第 14 回】 予習 : 住宅と社会予習 授業 : 住宅と社会 復習 : 住宅と社会の復習 【第 15 回】 予習 : 演習 2 予習 授業 : 演習 2 復習 : 演習 2 の復習								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書	授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	授業態度と授業内の小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目	インテリアの知識と技術Ⅱ							
その他	履修条件の詳細説明を 1 回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	インテリアの知識と技術Ⅱ		
科目分類	141-331-13	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:00 後期 水曜日 09:30～10:30 水曜日 12:30～14:30	研究室	2-201
授業概要	学科の他の科目や、インテリアの知識と技術Ⅰで学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深め、資格取得のためのさらなる実践力を養う。		
到達目標	建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等の各資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術の理解をさらに高め、実際の演習問題の正答率向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：テキストの準備 授業：オリエンテーション 復習：テキストの確認</p> <p>【第2回】 予習：インテリアの歴史予習 授業：インテリアの歴史 復習：インテリアの歴史の復習</p> <p>【第3回】 予習：インテリア計画予習 授業：インテリア計画 復習：インテリア計画の復習</p> <p>【第4回】 予習：環境工学予習 授業：環境工学 復習：環境工学の復習</p> <p>【第5回】 予習：構造と施工予習 授業：構造と施工 復習：構造と施工の復習</p> <p>【第6回】 予習：表現技法1予習 授業：表現技法1 復習：表現技法1の復習</p> <p>【第7回】 予習：表現技法2予習 授業：表現技法2 復習：表現技法2の復習</p> <p>【第8回】 予習：演習1予習 授業：演習1 復習：演習1の復習</p> <p>【第9回】 予習：色彩と造形予習 授業：色彩と造形 復習：色彩と造形の復習</p> <p>【第10回】 予習：建築関係法規予習 授業：建築関係法規 復習：建築関係法規の復習</p> <p>【第11回】 予習：住宅設備1予習 授業：住宅設備1 復習：住宅設備1復習</p> <p>【第12回】 予習：住宅設備2予習 授業：住宅設備2 復習：住宅設備2の復習</p> <p>【第13回】</p>			

予習：材料予習 授業：材料 復習：材料の復習 【第14回】 予習：住宅と社会予習 授業：住宅と社会 復習：住宅と社会の復習 【第15回】 予習：演習2予習 授業：演習2 復習：演習2の復習								
授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書	授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	授業態度と授業内の小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の3分の2未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目	インテリアの知識と技術 I							
その他	履修条件の詳細説明を1回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 インテリアの知識と技術 I を履修していることが望ましい。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	福祉住環境デザイン		
科目分類	140-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Housing Environment for Elderly and Disabled	授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	高齢者や障がい者を取り巻く社会状況を把握し、福祉住環境に関連する分野についての基礎的な知識を身につける。また、高齢者や障がい者が安全・安心して生活するための具体的な住環境整備の手法を学ぶ。授業では演習課題やフィールドワークを行う。		
到達目標	福祉の視点から住環境について考え、高齢者や障がい者が安全・安心して生活できる環境を整備するための手法や、その背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。高齢者や障がい者の身体的・精神的特性を理解したうえで、住環境を整備するための具体的な手法を習得する。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス 復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性（演習課題1） 復習：テキストを再読し、「少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性」について復習する</p> <p>【第3回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：福祉に関する制度としくみ（演習課題2） 復習：テキストを再読し、「福祉に関する制度としくみ」について復習する</p> <p>【第4回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢者や障害者の日常生活（演習課題3） 復習：テキストを再読し、「高齢者や障害者の日常生活について」復習する</p> <p>【第5回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ①移動（演習課題4） 復習：テキストを再読し、「移動のための基本技術」について復習する</p> <p>【第6回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ②水廻り（演習課題5） 復習：テキストを再読し、「水廻りの基本技術」について復習する</p> <p>【第7回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ③温熱環境（演習課題6） 復習：テキストを再読し、「温熱環境の基本技術」について復習する</p> <p>【第8回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ④インテリアデザイン（演習課題7） 復習：テキストを再読し、「インテリアデザインの基本技術」について復習する</p> <p>【第9回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：住まいの整備のための基本技術 ⑤屋外空間（演習課題8） 復習：テキストを再読し、「屋外空間の基本技術」について復習する</p> <p>【第10回】 予習：体験場所について調べる 授業：シニアシミュレーション体験（フィールドワーク） 復習：体験レポートをまとめる</p> <p>【第11回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢期の住まい方①（演習課題9） 復習：テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する</p> <p>【第12回】 予習：テキスト（指定されたページ）を読む 授業：高齢期の住まい方②（演習課題10） 復習：テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : テキスト (指定されたページ) を読む 授業 : 福祉のまちづくり① (演習課題 11) 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する 【第 14 回】 予習 : テキスト (指定されたページ) を読む 授業 : 福祉のまちづくり② (演習課題 12) 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する 【第 15 回】 予習 : 前回までの要点を読み返す 授業 : まとめ 復習 : 演習課題を復習する								
授業開始前学習	バリアフリーについてインターネットや書籍等で調べる。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回演習課題を実施し、講義の中で解説を行いながらフィードバックする。							
テキスト・教材	適宜プリントを配布する							
参考書	「心地よいバリアフリー住宅をデザインする方法」(エクスマレッジ)							
評価の基準と方法	ミニテストと演習課題、授業態度を総合して評価する。 配点 (100 点満点) は、ミニテストと演習課題 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			
関連科目								
その他	「シニアシミュレーション体験」は身近なバリアフリーを考える体験課題として実施します。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ランドスケープ論		
科目分類	142-331-12	単位数	履修ガイド参照
英文名称	Theory of Landscape Architecture	授業区分	講義
科目責任者	大林 万里江	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大林 万里江	開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画も進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。また、授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	ランドスケープの歴史や主要作品のデザイン手法の学習を通じて、建築、街並みといった私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。また、ランドスケープの作図の基礎を学習し、周囲の環境との関係を読み解きながら、ランドスケープ空間を創造する技術を習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
各回の授業内容と課題学習（予習・復習）			
<p>【第1回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：ガイダンス（ランドスケープとはなにか） 復習：配布資料を再読し、理解を深める</p> <p>【第2回】 予習：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業：ランドスケープデザインの歴史① 復習：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する</p> <p>【第3回】 予習：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業：ランドスケープデザインの歴史② 復習：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する</p> <p>【第4回】 予習：庭に関する資料を調べる 授業：庭とはなにか 復習：配布資料を再読し、庭について復習する</p> <p>【第5回】 予習：住空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業：住空間のランドスケープ 復習：配布資料を再読し、住空間のランドスケープについて復習する</p> <p>【第6回】 予習：都市空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業：都市空間のランドスケープ 復習：配布資料を再読し、都市空間のランドスケープについて復習する</p> <p>【第7回】 予習：緑化された建物の事例を調べる 授業：建物の緑化計画 復習：配布資料を再読し、建物の緑化について復習する</p> <p>【第8回】 予習：ランドスケープ事例の資料を収集する 授業：ランドスケープの事例研究①（演習課題1） 復習：事例研究資料をまとめる</p> <p>【第9回】 予習：ランドスケープ事例の資料を収集する 授業：ランドスケープの事例研究②（演習課題2） 復習：事例研究資料をまとめる</p> <p>【第10回】 予習：ランドスケープ事例研究の発表準備をする 授業：ランドスケープの事例研究の発表（グループ発表） 復習：講評内容を記録し、自己評価も行う</p> <p>【第11回】 予習：最近のランドスケープに関する資料を調べる 授業：これからのランドスケープ 復習：配布資料を再読し、最近のランドスケープの事例について復習する</p> <p>【第12回】 予習：住宅のランドスケープ事例を調べる 授業：住宅のランドスケープを考える（演習課題3） 復習：課題内容を整理・検討する</p> <p>【第13回】</p>			

予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 4) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する 【第 14 回】 予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 5) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する 【第 15 回】 予習 : 課題を完成させ、発表準備をする 授業 : 課題の提出・講評 (グループ発表) 復習 : 講評内容をもとに自己評価を行う								
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	事例研究は、9 回目の授業終了時に提出。1 0 回目で全体の発表を行い、質疑回答などを行う。設計課題は、1 4 回目の授業終了後に提出。15 回目で全体の発表を行い、質疑回答を行う。							
テキスト・教材	適宜資料を配布する。							
参考書	適宜、推薦図書・参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法	事例研究、課題等の提出物と授業参加度を総合して評価する。 配点 (1 0 0 点満点) は、提出物 6 0 点、授業参加度 4 0 点とする。 出席回数が授業回数 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		
関連科目								
その他	課題制作には、色鉛筆などの道具が必要になる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								